

# 久万高原町SS過疎地対策計画

令和5年1月

愛媛県久万高原町

<b>1.久万高原町の現状（地域特性、燃料供給体制等）</b>	<b>2</b>
（1）地理的条件・気候	3
（2）人口・世帯	4
（3）産業構造	9
（4）道路状況	15
（5）燃料供給体制の現状	17
<b>2.地域の燃料需要及び燃料供給ニーズ</b>	<b>20</b>
（1）町民の燃料利用状況とニーズ等（町民アンケート調査）	21
（2）町内の主要需要家の燃料需要と見通し	30
（3）久万高原町の燃料需要量の推計	31
（4）久万高原町における燃料需要及びニーズ等の整理	35
<b>3. 久万高原町におけるSS過疎地対策の方針と取組</b>	<b>37</b>
（1）久万高原町における燃料供給体制維持の基本方針と取組方向	38
（2）久万高原町における燃料供給体制維持に向けた取組方策	43
（3）実現に向けたアクションプラン（スケジュール）	57
<b>4. 参考資料</b>	<b>58</b>
（1）久万高原町SS過疎地対策計画策定委員会	59
（2）町民アンケート調査票	61

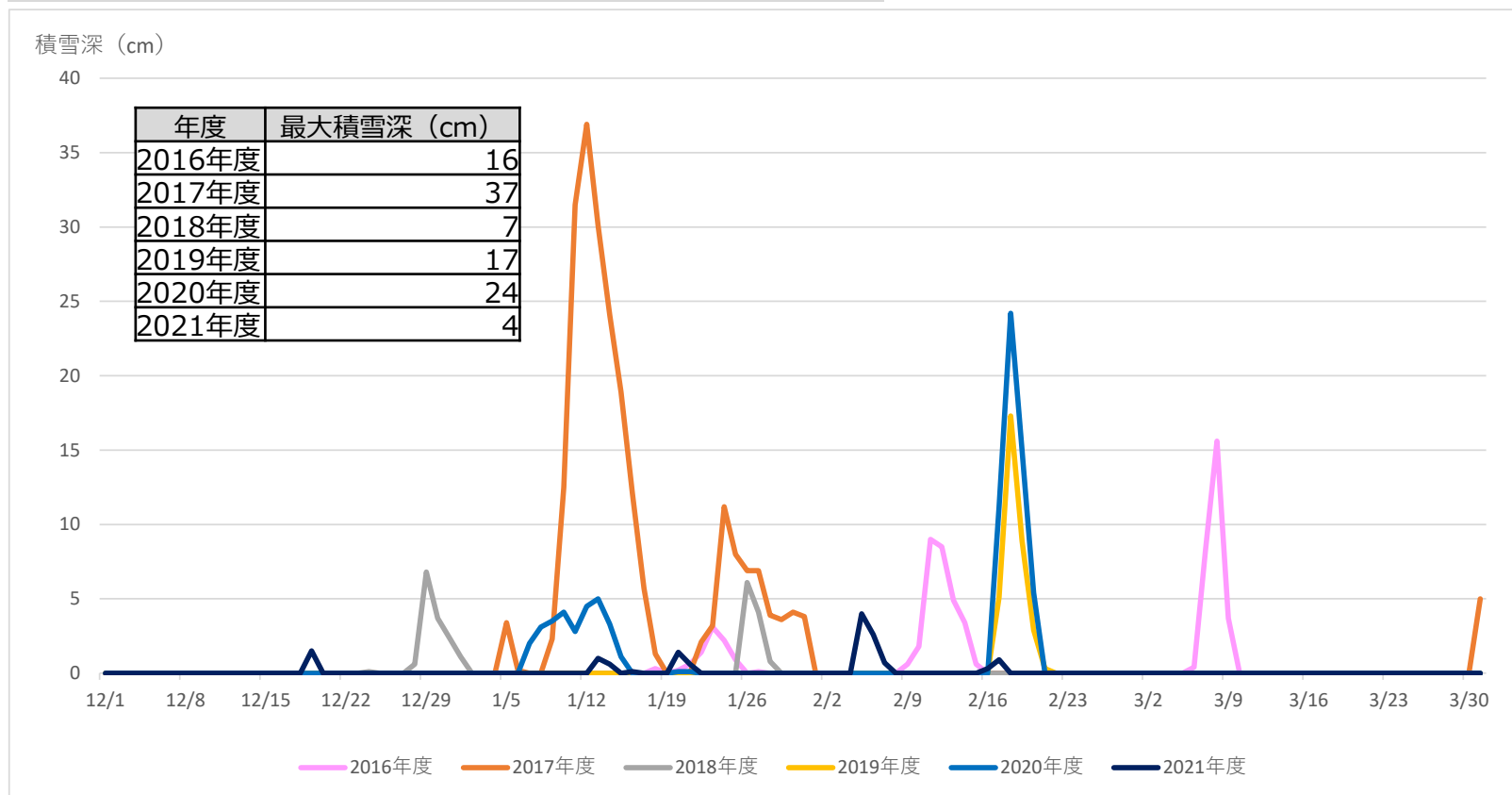
## 1.久万高原町の現状（地域特性、燃料供給体制等）

---

## (1) 地理的条件・気候

- 本町は愛媛県の中央部に位置し、南北約30km、東西約28km、総面積は583.69km<sup>2</sup>で、標高1,000mを超える四国山地に囲まれた高原の町である。
- 北部は県都松山市、東温市及び西条市に接し、西部は砥部町、内子町及び西予市、東部、南部は高知県と接している。
- 町内には四国山地に源流部をもつ仁淀川やその支流が縦走する水源地域であり、また、気温は年平均13.3℃と概して低く、夏季は冷涼、冬季は寒冷で積雪もあり、台風の常襲地帯に属している。

### 冬季積雪深の推移

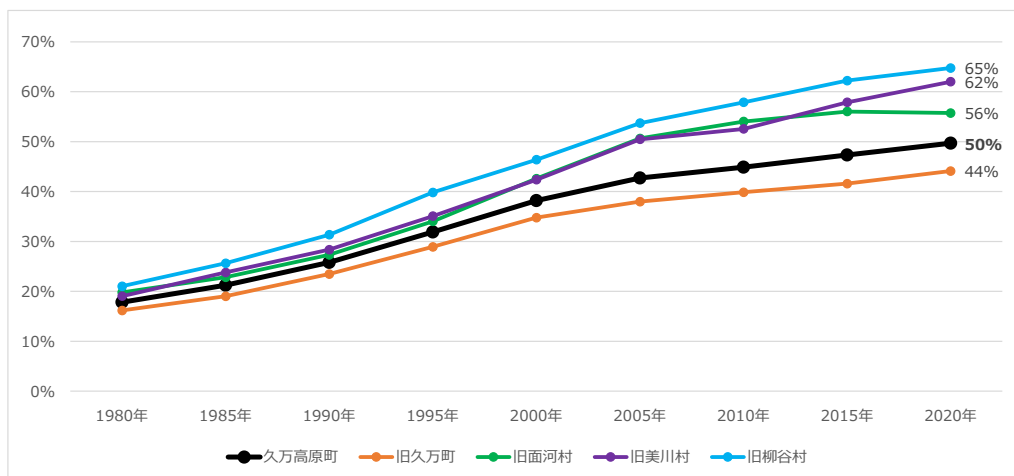
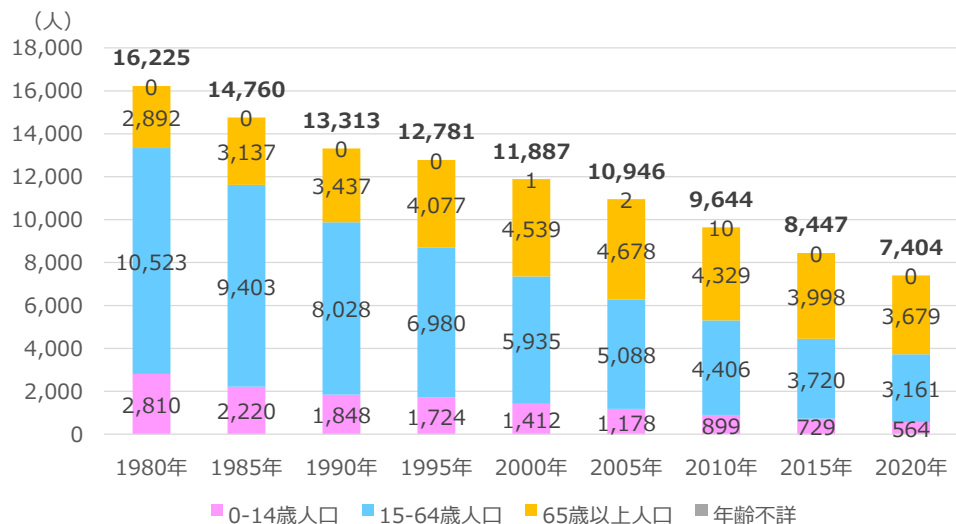


出典：久万高原町資料

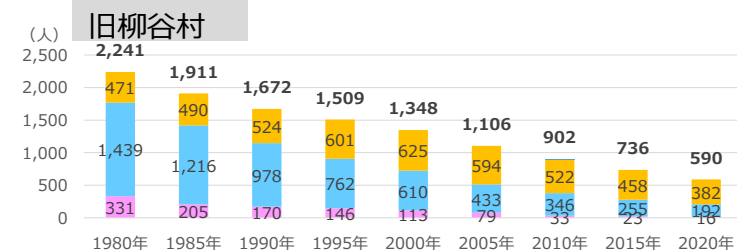
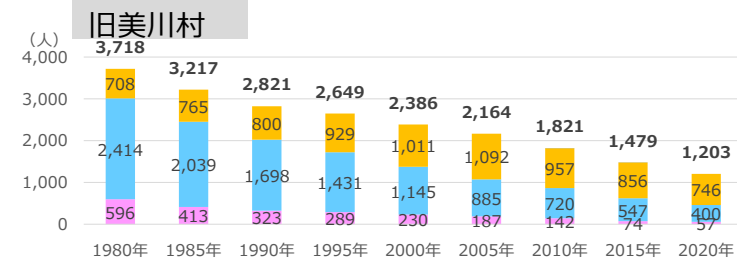
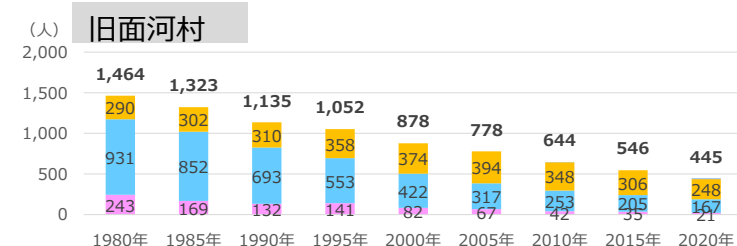
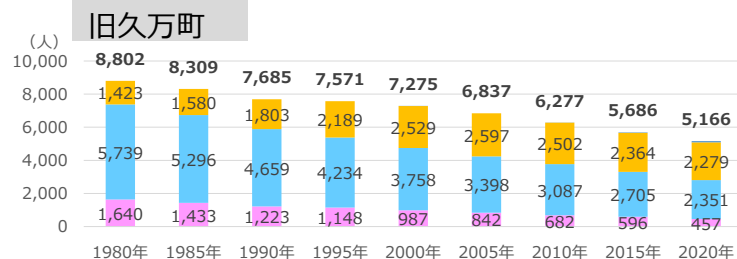
## (2) 人口・世帯 人口の推移

- 久万高原町の人口は減少傾向が続いており、この40年で5割以上減少している。
- 2020年の高齢化率は49.4%であるが、地区によっては6割を超えている。

久万高原町の総人口及び年齢3区分別人口の推移



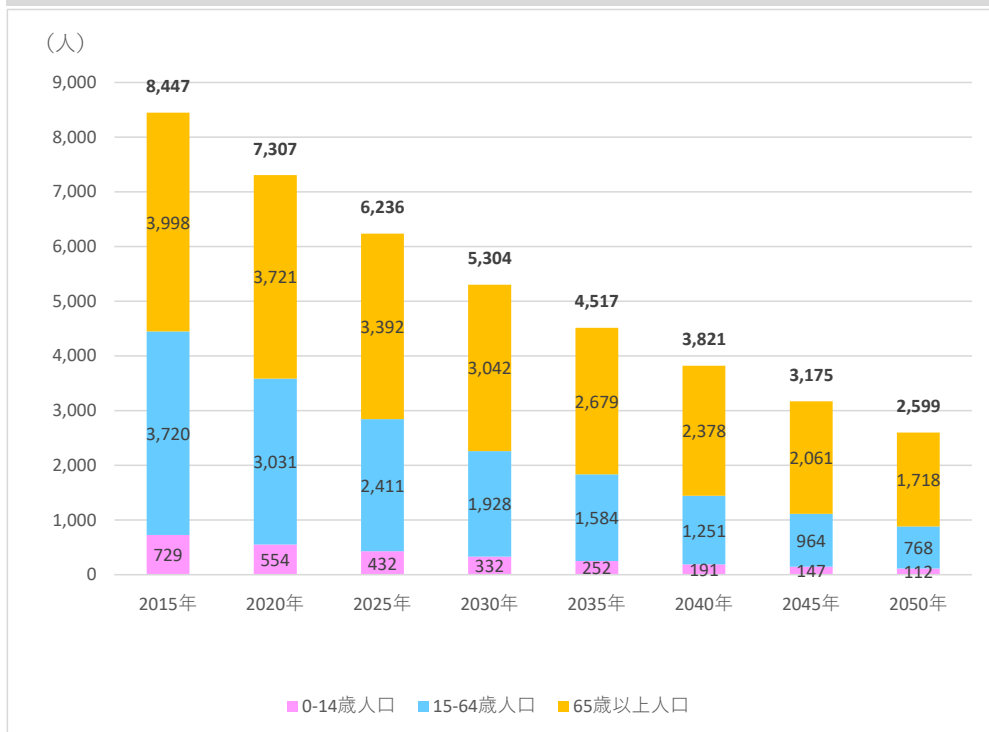
出典：総務省「国勢調査」



## (2) 人口・世帯 人口の推移

- 久万高原町の人口は、今後も減少が続く見通しであり、国立社会保障・人口問題研究所によると、2040年には約3,800人まで減少するものと推計されている。
- 一方、町では、今後の人口減少対策を進めることで、2040年に5,200人以上の人口を維持することを目標としている。

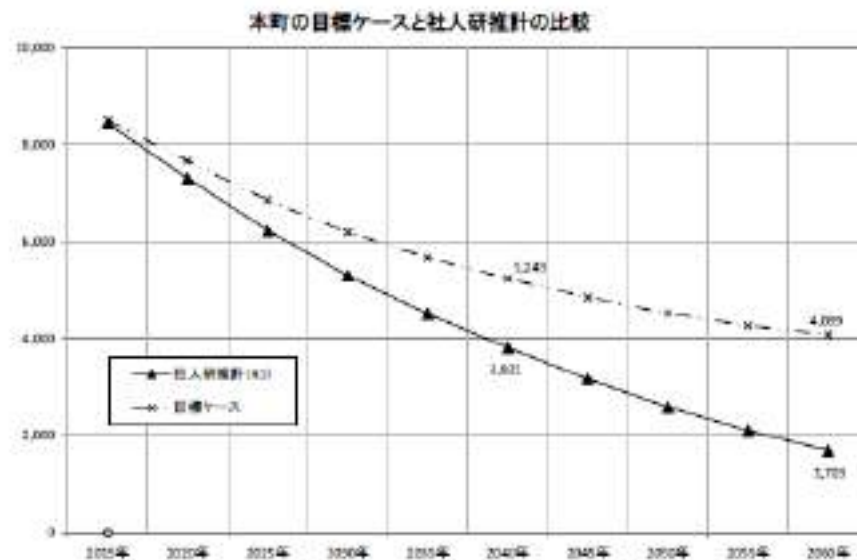
将来推計人口（社人研推計）



出典：国立社会保障・人口問題研究所（社人研）「将来推計人口（平成30年推計）」加工

久万高原町人口ビジョンにおける人口目標

本町の人口目標  
令和42年(2060年)の人口4千人以上を保持

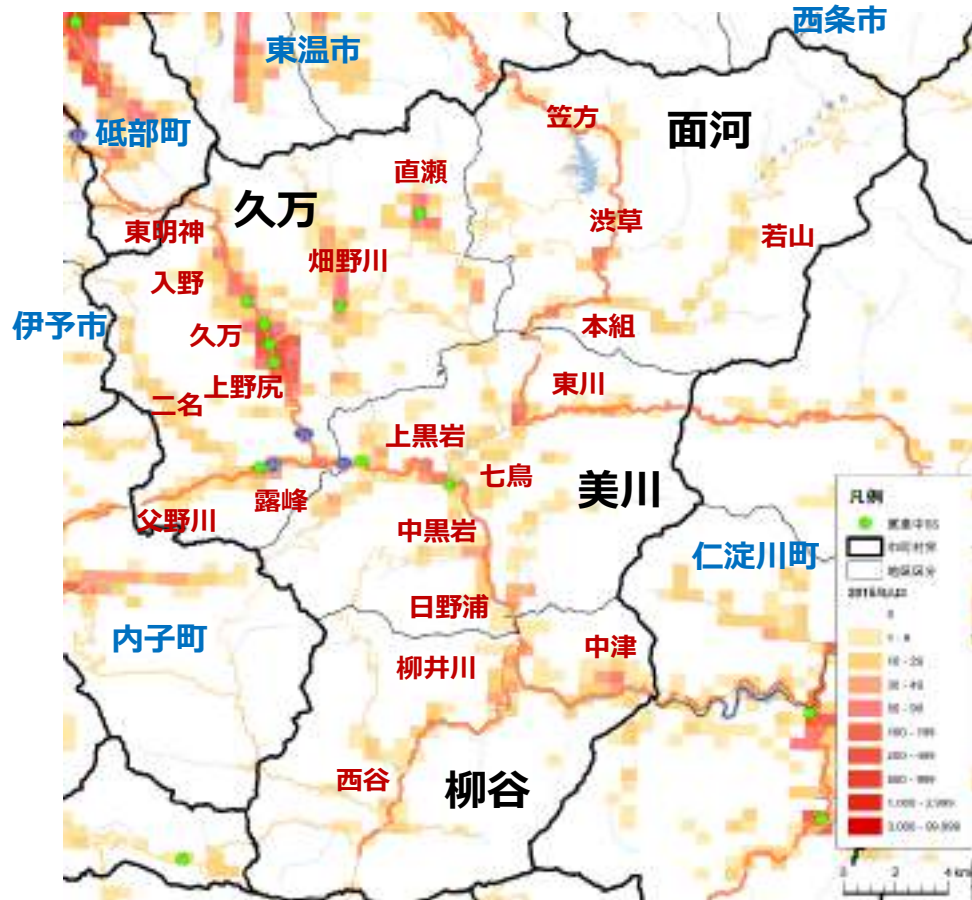


出典：久万高原町人口ビジョン

## (2) 人口・世帯 人口分布

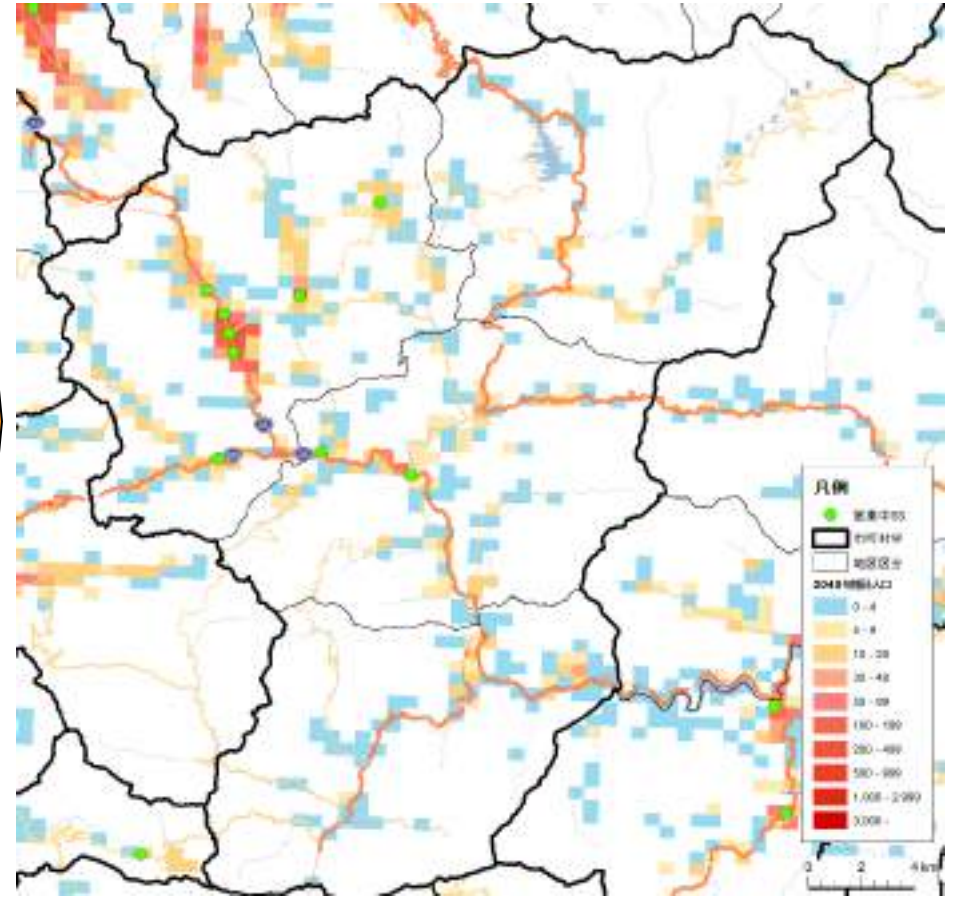
- 久万高原町の人口は、広く分布している。
- 将来推計人口の分布をみると、全体的に人口が減少中、無居住化するエリアが生じる可能性がある。

人口分布（2015年）



梶原町

将来推計人口分布（2040年）



出典：国土数値情報 500mメッシュ別将来推計人口データ（H30国交省国政局推計）、地区別人口は社人研推計に基づき価値総研推計

## (2) 人口・世帯 世帯数

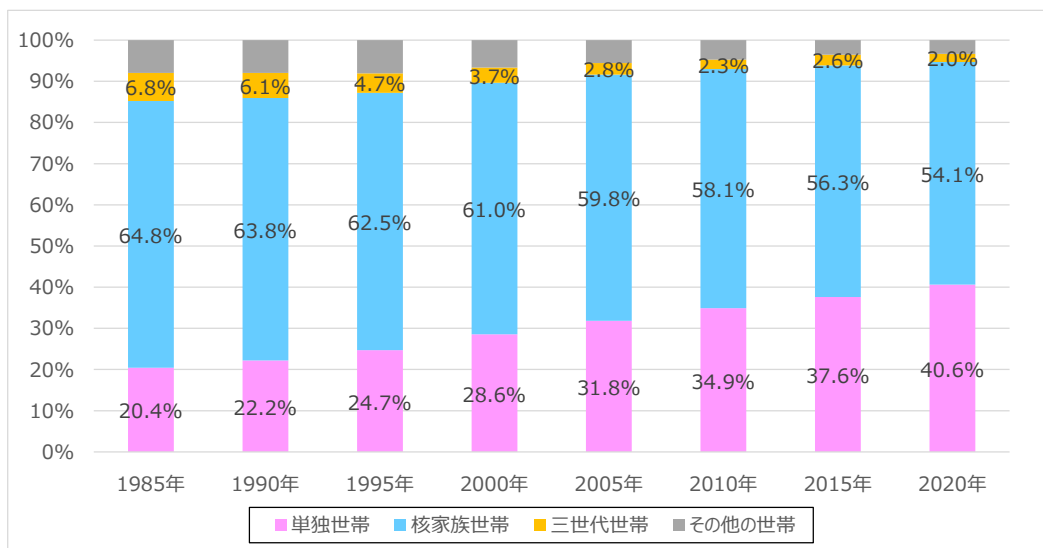
- 久万高原町の世帯数は、2010年以降減少している。
- 世帯の構成をみると、単独世帯の割合が上昇してきており、2020年は全世帯の4割が単独世帯となっている。
- 2020年時点の高齢者のみ世帯（夫婦のみ世帯19%、単身世帯28%）で世帯数全体の47%を占めている。このうち75歳以上のみ世帯が29%、85歳以上のみ世帯が12%となっている。
- これら高齢者世帯の割合の増加に伴い、移動制約者の割合も上昇していくものとみられる。

### 世帯数の構成と推移

世帯の家族類型	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
単独世帯	1,158	1,184	1,301	1,468	1,550	1,555	1,519	1,471
核家族世帯	3,676	3,401	3,294	3,136	2,912	2,587	2,273	1,958
夫婦のみ世帯	1,964	1,941	1,861	1,778	1,621	1,476	1,263	1,061
夫婦と未婚の子のみの世帯	1,419	1,148	1,101	1,014	925	793	687	589
ひとり親と未婚の子のみの世帯	293	312	332	344	366	318	323	308
三世代世帯	388	325	250	192	138	101	104	72
その他の世帯	450	424	424	341	270	211	143	120
合計	5,672	5,334	5,269	5,137	4,870	4,454	4,039	3,621

### 高齢者世帯の状況（2020年）

区分	総世帯数	65歳以上		
		75歳以上	85歳以上	
夫婦のみ世帯	3,621	703	372	68
		19%	10%	2%
単独世帯	3,621	1010	698	355
		28%	19%	10%





## (2) 人口・世帯 流動人口（通勤動向）

- 久万高原町に居住し、町外に通勤している人（流出人口）は270人、町外から久万高原町内に通勤している人（流入人口）は654人で、流入人口が流出人口を大きく上回っている。流出・流入ともに、松山市、砥部町との流動が多い。

流入の状況（2020年、就業者（通勤者）のみ）

区分	人数	割合
久万高原町に居住する就業者	3,492	
うち、町内で従業している人	3,182	91.1%
うち、町外で従業している人（流出人口）	270	7.7%
従業地不詳	40	
久万高原町で従業する人	3,876	
うち、町内に居住している人	3,182	82.1%
うち、町外に居住している人（流入人口）	654	16.9%
居住地不詳	40	

従業する産業別の流入の状況（2020年）

	町内に居住		町外に居住	町内従業者数 (人)	町内従業者に占める 町外居住者の割合
	町外で従業	町内で従業			
総数	277	3182	654	3,876	17%
A 農業、林業	10	925	103	1,029	10%
うち農業	8	696	31	727	4%
B 漁業	-	1	-	1	-
C 鉱業、採石業、砂利採取業	1	6	2	8	25%
D 建設業	53	222	72	296	24%
E 製造業	35	165	39	205	19%
F 電気・ガス・熱供給・水道業	1	22	6	28	21%
G 情報通信業	-	9	1	10	10%
H 運輸業、郵便業	24	61	16	78	21%
I 卸売業、小売業	30	294	57	359	16%
J 金融業、保険業	1	21	14	35	40%
K 不動産業、物品賃貸業	2	3	-	3	-
L 学術研究、専門・技術サービス業	14	62	40	102	39%
M 宿泊業、飲食サービス業	7	145	24	170	14%
N 生活関連サービス業、娯楽業	6	100	19	120	16%
O 教育、学習支援業	9	161	79	240	33%
P 医療、福祉	47	512	74	596	12%
Q 複合サービス事業	5	68	31	101	31%
R サービス業（他に分類されないもの）	20	141	18	160	11%
S 公務（他に分類されるものを除く）	8	243	51	298	17%
T 分類不能の産業	4	21	8	37	22%

主な流出先（2020年、就業者（通勤者）のみ）

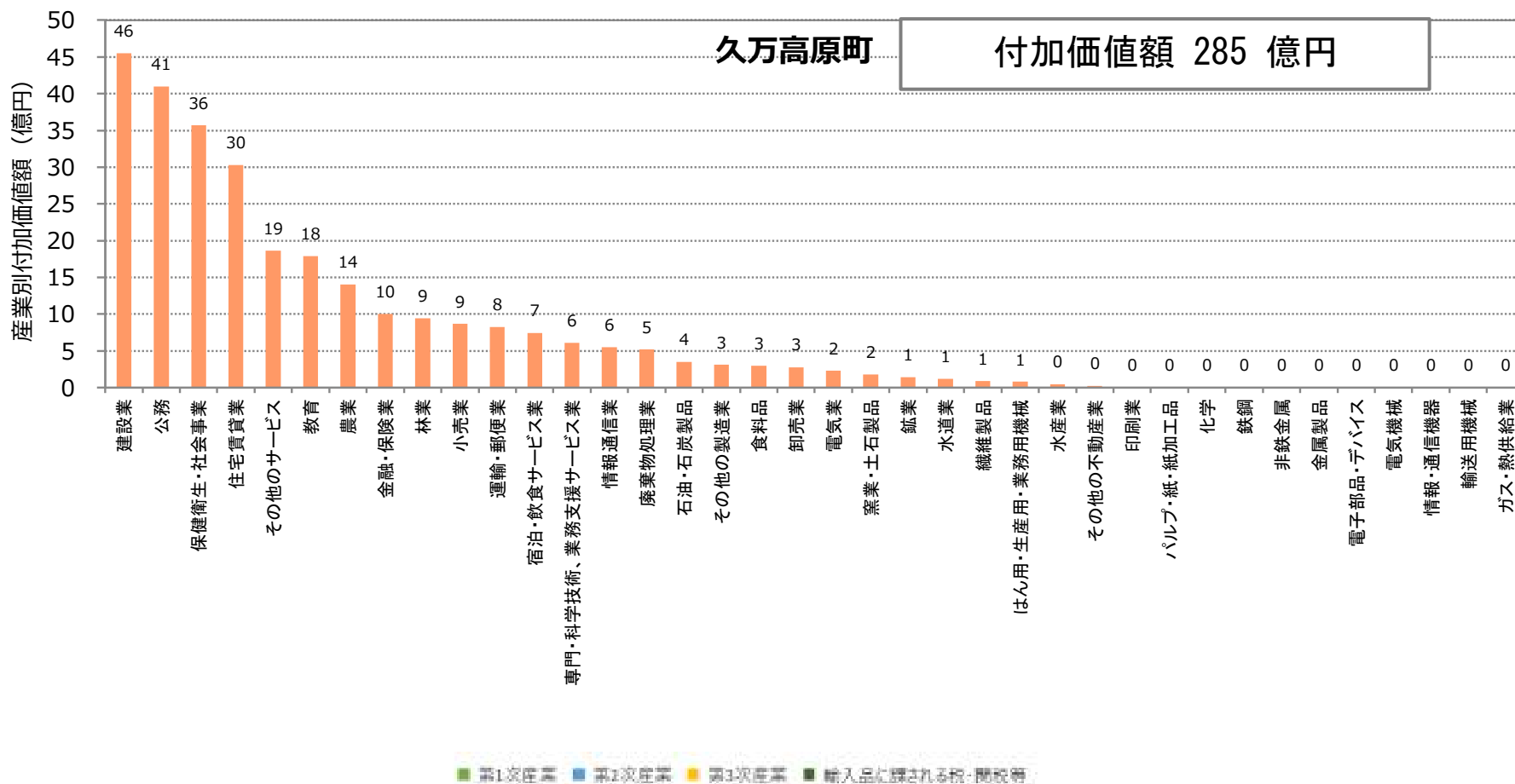
	流出人口	流入人口	流入超過
松山市	167	349	182
大洲市	1	9	8
伊予市	13	31	18
東温市	18	27	9
松前町	11	27	16
砥部町	42	139	97
内子町	1	41	40
仁淀川町	5	6	1
梶原町	1	4	3
その他	11	21	10
計	270	654	384

出典：総務省「2020年国勢調査報告」

### (3) 産業構造 地域経済の構造

- 久万高原町の域内総生産（付加価値額）は約285億円（2018年）となっている。
- 最も付加価値を稼いでいる産業は建設業で、次いで公務、保健衛生・社会事業となっている。これら3つの産業の付加価値額合計は123億円であり、全体の40%を占めている。

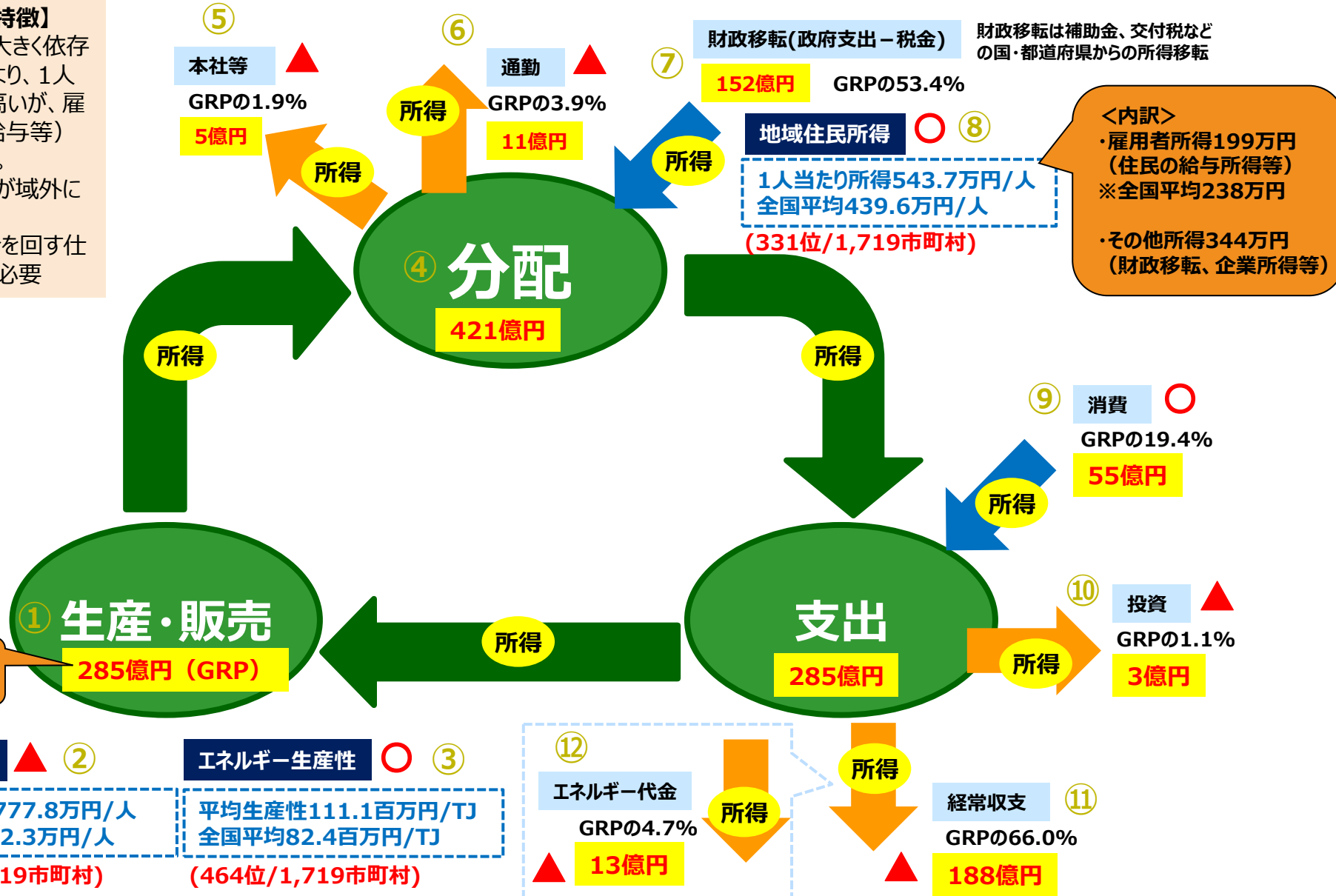
久万高原町の町内総生産（285億円）の内訳（2018年）



### (3) 産業構造 地域経済の構造

#### 【地域経済の特徴】

- ・財政移転に大きく依存
- ・財政移転により、1人あたり所得は高いが、雇  
用者所得（給与等）  
の水準は低い。
- ・GRPの66%が域外に  
流出  
→域内で資金を回す仕  
組みの構築が必要



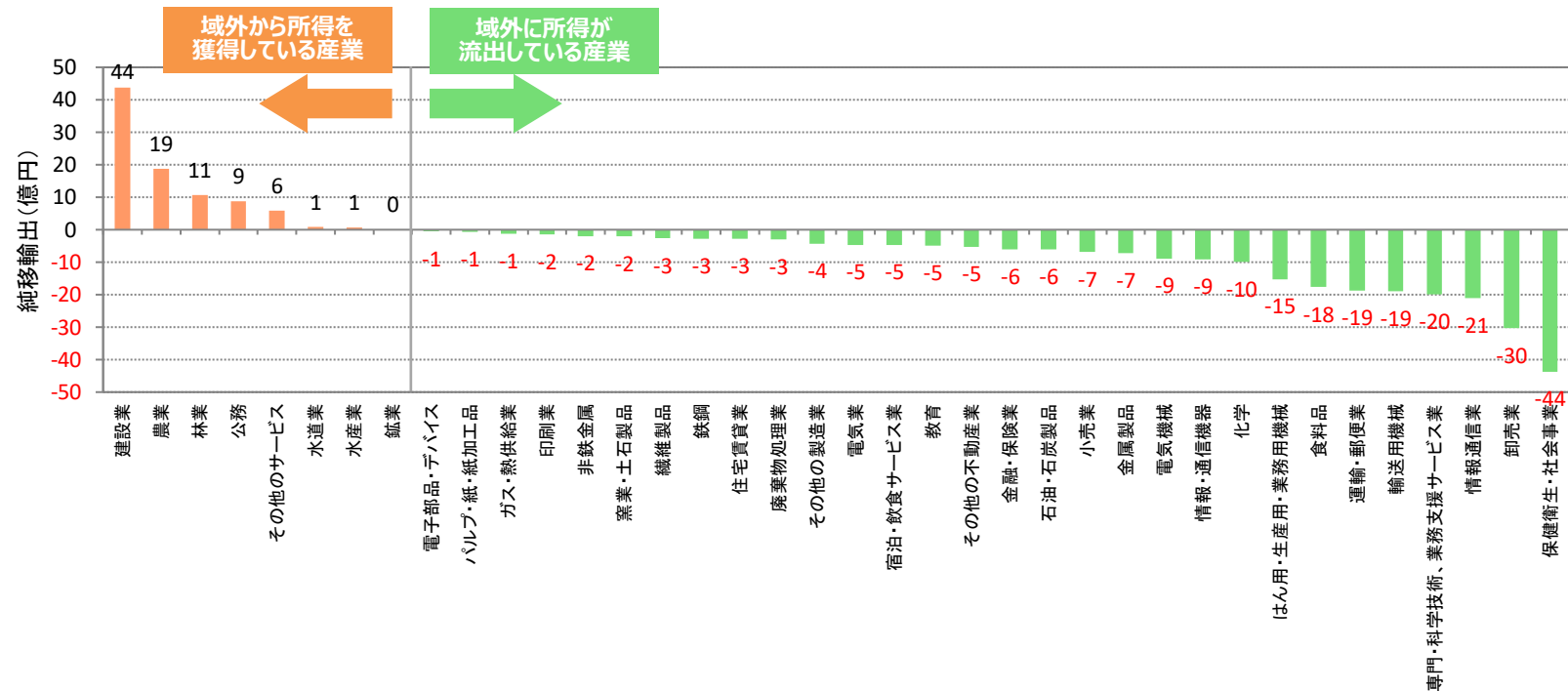
### (3) 産業構造 地域経済の構造

	地域の特徴	視点
生産 販売	<p>①久万高原町では、285億円の付加価値を稼いでいる。</p> <p>②労働生産性は777.8万円/人と全国平均よりも低く、全国では817位である。</p> <p>③エネルギー生産性は111.1百万円/TJと全国平均よりも高く、全国では464位である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 域内で労働生産性とエネルギー生産性が両立できているか。</li> <li>■ エネルギー生産性は、エネルギー消費1単位あたりの付加価値である。</li> </ul>
分配	<p>④久万高原町の分配は421億円であり、①の生産・販売285億円よりも大きい。</p> <p>⑤また、本社等への資金として5億円が流出しており、その規模はGRPの1.9%を占めている。</p> <p>⑥さらに、通勤に伴う所得として11億円が流出しており、その規模はGRPの3.9%を占めている。</p> <p>⑦財政移転は152億円が流入しており、その規模はGRPの53.4%を占めている。</p> <p>⑧久万高原町の1人当たり所得は543.7万円/人と全国平均よりも高く、全国で331位である。ただし、1人当たり雇用者所得は199万円/人と全国平均238万円よりも低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生産面で稼いだ付加価値が賃金・人件費として分配され、地域住民の所得(夜間人口1人当たり所得)に繋がっているか否か。</li> <li>■ 本社等や域外からの通勤者に所得が流出していないか。</li> <li>■ 財政移転はどの程度か。</li> </ul>
支出	<p>⑨久万高原町では買物や観光等で消費が55億円流入しており、その規模はGRPの19.4%を占めている。</p> <p>⑩投資は3億円流出しており、その規模はGRPの1.1%を占めている。</p> <p>⑪移出入では188億円の流出となっており、その規模はGRPの66.0%を占めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域内で稼いだ所得が地域内の消費や投資に回っているか否か。</li> <li>■ 消費や投資が域内に流入しているか否か。</li> <li>■ 移出入で所得を稼いでいるか否か。</li> </ul>
エネルギー	<p>⑫久万高原町では、エネルギー代金が域外へ13億円の流出となっており、その規模はGRPの4.7%を占めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ エネルギー代金の支払いによって、住民の所得がどれだけ域外に流出しているか。</li> </ul>

### (3) 産業構造 地域経済の構造

- 久万高原町で域外から所得を獲得している産業は建設業、農業、林業、公務、その他のサービス、水道業等である。これらは、域内での生産額が大きい産業であり、地域で強みのある産業といえる。

産業別純移輸出額



### (3) 産業構造 事業所数・従業者数

- 久万高原町内の民営事業所数は486事業所、同従業者数は2,562人（2016年）となっている。
- 事業所数では、卸売業、小売業が最も多く、従業者数では、医療、福祉が最も多い。

産業中分類別の民営事業所数、従業者数（2016年）

業種	事業所数（箇所）	割合（%）	従業者数（人）	割合（%）
A農業，林業	16	3.3%	163	6.4%
B漁業	0	0.0%	0	0.0%
C鉱業，採石業，砂利採取業	1	0.2%	20	0.8%
D建設業	53	10.9%	334	13.0%
E製造業	42	8.6%	271	10.6%
F電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.4%	18	0.7%
G情報通信業	1	0.2%	1	0.0%
H運輸業，郵便業	10	2.1%	62	2.4%
I卸売業，小売業	136	28.0%	475	18.5%
J金融業，保険業	6	1.2%	38	1.5%
K不動産業，物品賃貸業	4	0.8%	5	0.2%
L学術研究，専門・技術サービス業	6	1.2%	27	1.1%
M宿泊業，飲食サービス業	58	11.9%	206	8.0%
N生活関連サービス業，娯楽業	43	8.8%	215	8.4%
O教育，学習支援業	10	2.1%	46	1.8%
P医療，福祉	35	7.2%	479	18.7%
Q複合サービス事業	21	4.3%	101	3.9%
Rサービス業（他に分類されないもの）	41	8.4%	98	3.8%
A～R全産業（S公務を除く）	486	100.0%	2,562	100.0%

出典：総務省「平成28年経済センサス活動調査」

### (3) 産業構造 観光

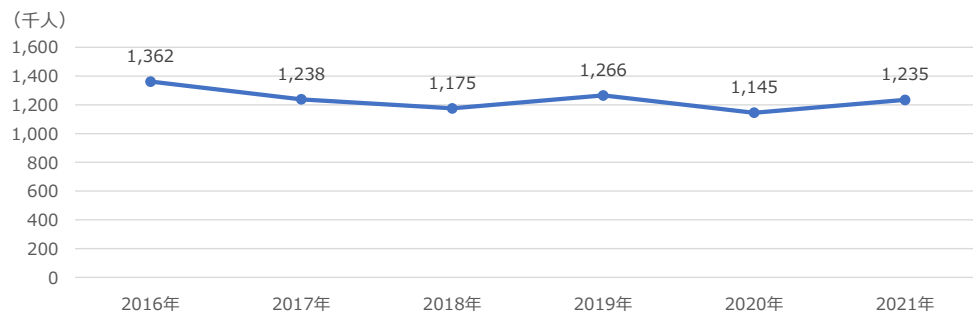
- 久万高原町には、四国カルスト、石鎚山をはじめとする豊かな自然や、魅力ある特産品等を生かした観光施設が多数あり、これら主要観光施設の入込客数合計は年間約120万人となっている。

#### 久万高原町内の主な観光スポットの入込客数

単位：人

主要観光施設	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
面河山岳博物館	9,746	7,691	7,684	8,802	7,077	6,629
石鎚山（土小屋）	112,800	81,067	90,667	101,620	96,030	99,958
古岩屋荘	14,474	14,426	14,115	13,838	7,540	6,802
物産館みどり	6,285	436	1,893	4,559	5,218	1,397
久万高原ふるさと旅行村	17,794	15,890	21,170	26,173	25,436	29,700
久万農業公園	16,985	13,268	17,144	14,070	7,159	7,160
久万美術館	5,867	4,905	4,451	5,365	2,997	3,015
久万スキーランド	42,479	44,732	44,695	36,937	34,035	44,451
農村活性センターみかわ	44,531	42,968	33,381	38,410	10,500	149,423
道の駅「天空の郷 さんさん」	1,091,000	1,013,000	940,000	1,016,000	949,000	886,000
計	1,361,961	1,238,383	1,175,200	1,265,774	1,144,992	1,234,535

#### 主要観光スポットの入込客数の推移

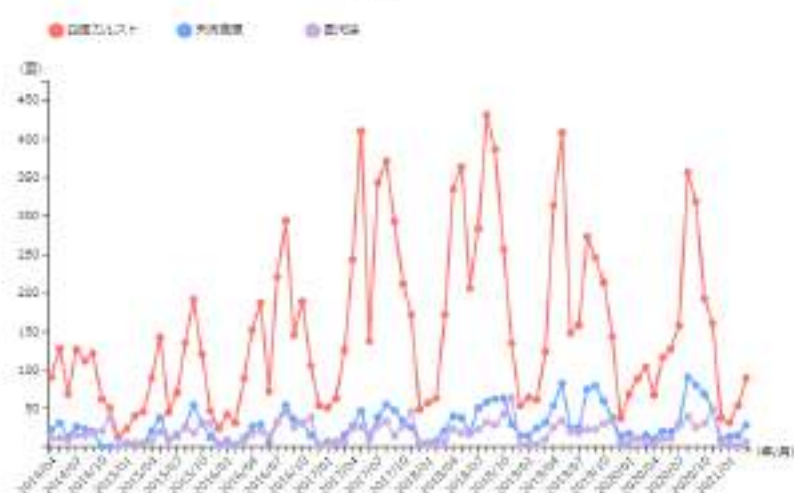


出典：愛媛県「観光客数とその消費額」加工

#### ナビデータによる町内の目的地検索ランキング

##### 目的地検索ランキングの推移

目的地検索ランキング  
2014年4月～2021年3月（毎月）  
目的地

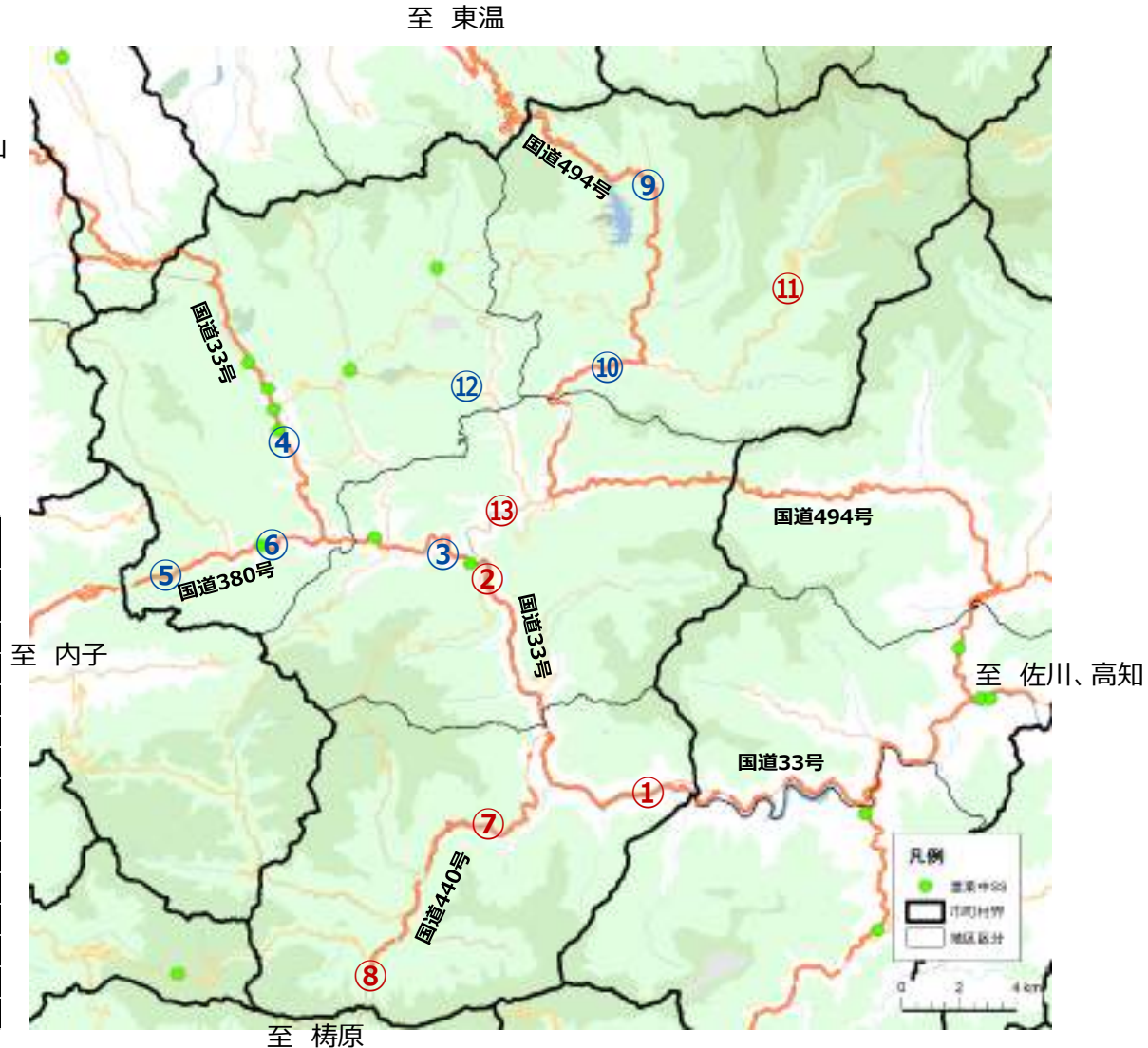


出典：RESAS観光マップ

## (4) 道路状況 道路交通量

- 国道33号は高知市と松山市を結ぶ大動脈であり、交通量が比較的多く、通過交通も多い。

至 東温  
至 砥部、松山



至 内子

至 佐川、高知

至 梶原

	路線	地点	12時間交通量		24時間交通量		12時間 交通量 増加率	24時間 交通量 増加率
			2010年	2015年	2010年	2015年		
①	一般国道33号	中津	1,050	1,339	1,241	1,613	128%	130%
②	一般国道33号	中黒岩	2,443	2,491	2,895	2,891	102%	102%
③	一般国道33号	上黒岩	3,364	3,150	3,889	3,658	94%	94%
④	一般国道33号	上野尻	6,100	4,657	7,207	5,306	76%	76%
⑤	一般国道380号	父野川	768	694	929	847	90%	90%
⑥	一般国道380号	露峰	1,516	1,306	1,834	1,541	86%	86%
⑦	一般国道440号	西谷	726	809	878	987	111%	111%
⑧	一般国道440号	西谷	488	487	590	643	100%	100%
⑨	一般国道494号	笠方	273	228	330	249	84%	84%
⑩	一般国道494号	本組	1,224	1,225	1,481	1,433	100%	100%
⑪	西条久万線	若山	728	793	881	967	109%	109%
⑫	西条久万線	直瀬	1,166	1,133	1,411	1,326	97%	97%
⑬	東川上黒岩線	七鳥	1,403	1,464	1,698	1,713	104%	104%



## (4) 道路状況 災害規制等

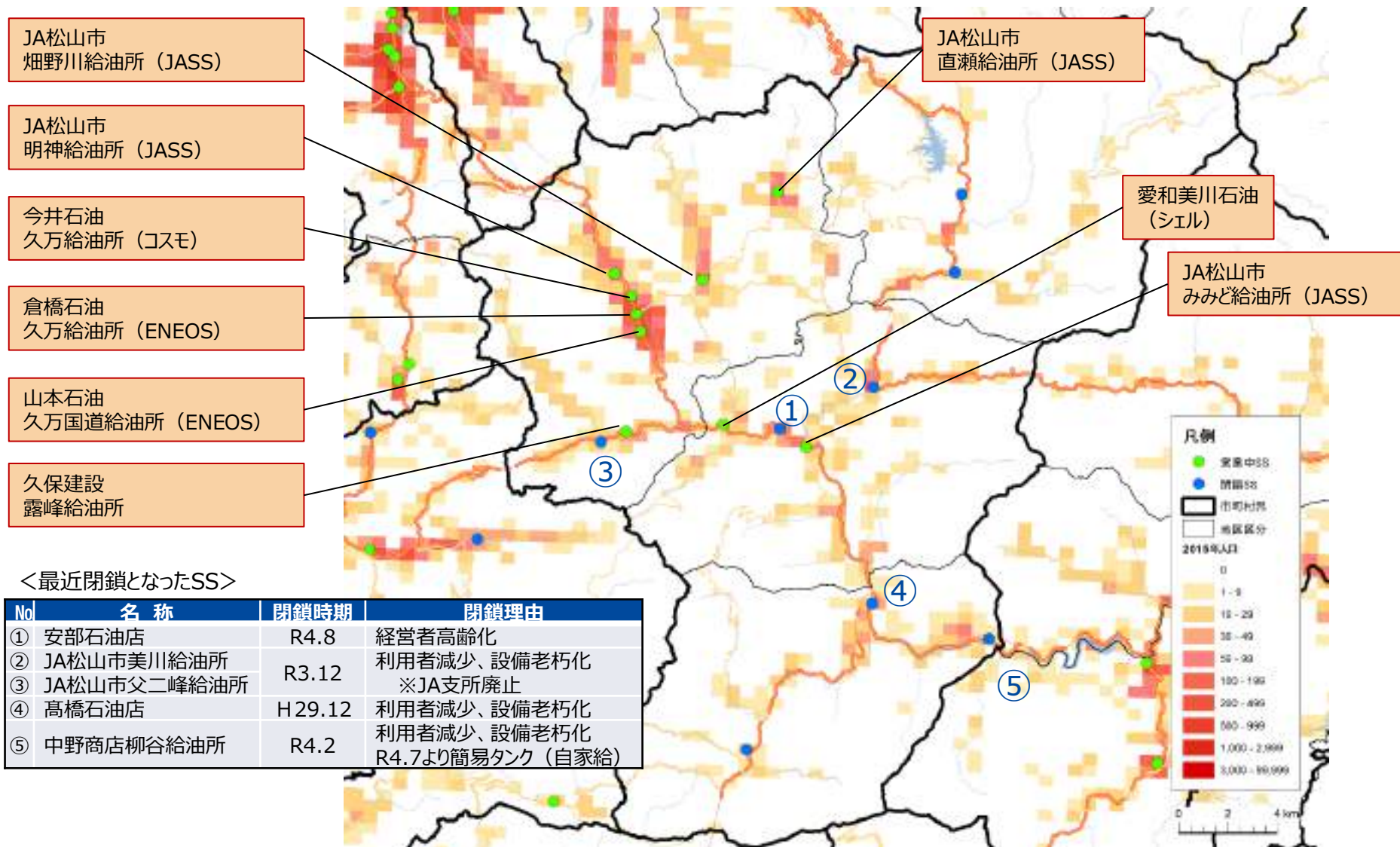
- 町内の道路は、山間部を縫うように進むため線形不良の箇所も多く、冬季の積雪や凍結による危険があるほか、異常気象時の事前通行規制区間も存在している。
- 令和4年9月の台風14号では、町内の多くの路線が事前規制となったほか、倒木や崩土による通行止めが発生している。



番号	区間	時期	理由
Ⓐ	町道大門線	R4.5	町道上の圃場の法面崩土のため
Ⓑ	町道四国カルスト高原線	R3.8	路肩崩壊のため
Ⓒ	町道河ノ子線	R4.9	台風による倒木のため
Ⓓ	町道宮の前明神線	R4.9	台風による倒木のため
Ⓔ	県道52号(小田柳谷線)	R4.9	台風による事前規制
Ⓕ	県道36号(野村柳谷線)	R4.9	台風による崩土のため
Ⓖ	国道494号	R4.9	台風による事前規制
Ⓗ	国道440号	R4.9	台風による事前規制
Ⓘ	町道昭和線	R4.9	台風による崩土のため
Ⓙ	県道12号(西条久万線)	R4.9	台風による事前規制
Ⓚ	国道33号	R4.9	台風による事前規制
Ⓛ	県道153号(落合久万線)	R4.9	台風による崩土のため

## (5) 燃料供給体制の現状 町内のSS立地状況

- 2022年11月現在で、久万高原町内には9箇所のSSが営業している。(うち、JASSが4箇所)
- 利用者減少、設備老朽化等により、この1年で3箇所のSSが閉鎖となっている。



## (5) 燃料供給体制の現状 町内SSの営業状況、見通し等

- 町内の燃料供給体制は、9箇所のSSと、JA久万経済センター（軽油・灯油取扱のみ）が担っている。
- 土曜日、日曜日は、人手不足・働き方改革や、販売量が少ない等の理由から、多くのSSが休業日としている。
- JA直瀬SSは、地下タンク期限が2025年に迫っており、施設維持に向けた対応が必要となっている。

給油所名	地区	タンク容量 (KL)	ブランド	営業時間	土・日営業日	油外	配達	備考
山本石油 久万国道給油所	久万	70	JX	7:00～17:30	土：第1,3,5 日：休	○	○	A重油取扱いあり
今井石油 久万給油所	入野	50	コスモ	7:00～18:00 (日曜8:00～17:00)	土：第1,5 日：第3	○	○	
倉橋石油店 久万給油所	久万	50	JX	7:00～19:00	土：営業 日：第2のみ	○	○	
愛和美川石油	大川	40	シェル	7:00～18:30	土：第1,3,4,5 日：休	○	○	このほか、建設会社機材への給油有
株式会社久保建設 露峰給油所	露峰	40	-	9:00～18:00	土：第1,3,4,5 日：休	○	○	このほか、建設会社機材への給油有
JA松山市 畑野川給油所	下畑野川	30	JASS	8:30～17:00	土日休	-	-	
JA松山市 直瀬給油所	直瀬	30	JASS	8:30～17:00	土日休	※	-	地下タンク：2025年頃期限
JA松山市 みみど給油所	中黒岩	20	JASS	8:30～17:00	土日休	※	○	
JA松山市 明神給油所	西明神	20	JASS	8:30～17:00	土日休	※	-	
JA松山市 久万経済センター	菅生	150	JASS	8:30～17:00	土日休	※	○	タンクは灯油、重油、ガソリン（自家給）

※油外：車両の点検、タイヤ交換等の油外サービス等。JASSは一部で購買事業店舗併設  
 ※JASS久万経済センターは給油所ではないが、灯油重要配送の拠点となっているため掲載

出所) 各SS事業者ヒアリング (2022/11/26,11/29) による

## (5) 燃料供給体制の現状 町内SSの営業状況、見通し等

### <SSヒアリング結果概要>

#### ○販売量の傾向

- 町内のほとんどのSSが、近年の販売量は減少傾向で、何とか収支を維持している状態であるとしている。
- 近年閉鎖したSSに近いSSでは、閉鎖後売上がやや増加したものの、経年減少を補う程度であるとしている。
- 休日は観光客からの休日ニーズはあるものの、バイクが中心で量自体が少ないこともあり、人手不足や働き方改革もあり、休日営業は難しいとしている。
- JASS以外のSSは、洗車、メンテナンス等の油外サービスを取り扱っているが、売上に占める割合は1割に満たない。
- JASSは、購買部門と隣接して営業している。

#### ○タンク・設備

- ほとんどのSSが、タンク入替、ライニング処理、高精度油面計等により対応しているが、JASSの一部では、数年後にタンク更新時期を迎えるものがある。

#### ○配達

- 一部のJASS以外は、灯油配達販売を行っている（JA久万経済センターでは全町に配達販売実施）。配達にあたり、SS周辺（旧町村内等）、一定量以上（例えばポリ缶3個以上等）を条件としているSSも多い。
- 一部のSSは、軽油やA重油の配送も行っている。

#### ○今後の営業見通し

- ほとんどのSSでは、当面営業を継続するとしている。ただし、売上増は見込みにくく、従業員の高齢化等、人材確保が困難となったタイミングでの閉鎖を想定しているSSもある。

## 2.地域の燃料需要及び燃料供給ニーズ

---

# (1) 町民の燃料利用状況とニーズ等（町民アンケート調査）

## ○町民アンケート調査の概要

＜対象＞ 久万高原町内の2055世帯（久万エリアは全世帯の25%、面河・美川・柳谷の各エリアは全世帯に配布）

＜実施期間＞ 令和4年11月14日～11月30日

＜実施方法＞ 郵送配布・郵送回収

＜調査項目＞

- ✓ 基本属性（居住地区、世帯人数、世帯人員の年齢）
- ✓ 灯油の利用・購入状況（灯油利用の有無、灯油購入方法、灯油購入場所、購入頻度、購入量）
- ✓ 自動車用燃料の給油状況（給油場所、給油頻度、給油量）
- ✓ 最近町内のSSが閉鎖となったことでの不便
- ✓ 今後の燃料利用についての不安
- ✓ 今後の町内のガソリンスタンドについての考え
- ✓ 自由意見

＜回収状況＞ 回収数930世帯／2055世帯（回収率45%）

エリア	地区区分	回収数	配布数	回収率
久万	・久万（明神、入野、久万、菅生）	194		
	・川瀬（畑野川、直瀬）	65		
	・父二峰（露峰、父野川、二名）	35		
	久万エリア 計	294	701	41.9%
面河	・大味川（本組、中組、河の子、相の木、若山）	60		
	・杣野（渋草、前組、相の峰、笠方）	67		
	面河エリア 計	127	273	46.5%
美川	・美川西（有枝、大川、上黒岩）	97		
	・美川南（中黒岩、日野浦、沢渡、黒藤川）	103		
	・仕七川（仕出、七鳥、東川）	126		
	美川エリア 計	326	722	45.2%
柳谷	・柳井川	78		
	・西谷	45		
	・中津	52		
	柳谷エリア 計	175	359	48.7%
地区無回答		8		
合計		930	2,055	45.3%

# (1) 町民の燃料利用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

## ○回答世帯の基本属性

### 世帯人員【単回答】

世帯人数	久万エリア				面河エリア			美川エリア				柳谷エリア				合計	WB
	久万	川瀬	父二峰	計	大味川	杣野	計	美川西	美川東	仕七川	計	柳井川	西谷	中津	計		
1人	28%	26%	26%	27%	30%	52%	42%	33%	40%	26%	33%	37%	41%	29%	36%	33%	30%
2人	41%	45%	43%	42%	52%	30%	40%	50%	46%	54%	50%	52%	43%	51%	49%	46%	44%
3人	12%	20%	14%	14%	13%	16%	15%	11%	11%	8%	10%	9%	7%	12%	9%	12%	13%
4人	11%	5%	6%	9%	2%	0%	1%	2%	2%	10%	5%	0%	7%	6%	4%	5%	7%
5人以上	8%	5%	11%	7%	3%	1%	2%	3%	1%	2%	2%	1%	2%	2%	2%	4%	6%
回答数	194	65	35	294	60	67	127	96	102	125	323	75	44	51	170	914	1,796

### 高齢者を含む世帯【単回答】

区分	久万エリア				面河エリア			美川エリア				柳谷エリア				合計	WB
	久万	川瀬	父二峰	計	大味川	杣野	計	美川西	美川東	仕七川	計	柳井川	西谷	中津	計		
65歳以上を含まない世帯	33%	32%	23%	32%	30%	25%	28%	32%	10%	26%	23%	17%	16%	16%	16%	25%	28%
65歳以上を含む世帯	67%	68%	77%	68%	70%	75%	72%	68%	90%	74%	77%	83%	84%	84%	84%	75%	72%
回答数	194	65	35	294	60	67	127	96	102	125	323	75	44	51	170	914	1,796

### 高齢者のみ世帯 (世帯人員全員が65歳以上)【単回答】

区分	久万エリア				面河エリア			美川エリア				柳谷エリア				合計	WB
	久万	川瀬	父二峰	計	大味川	杣野	計	美川西	美川東	仕七川	計	柳井川	西谷	中津	計		
65歳以上のみの世帯	45%	49%	51%	47%	55%	63%	59%	52%	69%	61%	61%	72%	77%	67%	72%	58%	52%
うち75歳以上のみの世帯	23%	31%	34%	26%	25%	40%	33%	27%	41%	38%	36%	35%	48%	37%	39%	33%	29%
うち85歳以上のみの世帯	7%	12%	23%	10%	8%	9%	9%	5%	21%	20%	16%	16%	27%	12%	18%	13%	12%
回答数 (全世帯数)	194	65	35	294	60	67	127	96	102	125	323	75	44	51	170	914	1,796

### 高齢者単独世帯 (世帯人員1人かつ65歳以上)【単回答】

区分	久万エリア				面河エリア			美川エリア				柳谷エリア				合計	WB
	久万	川瀬	父二峰	計	大味川	杣野	計	美川西	美川東	仕七川	計	柳井川	西谷	中津	計		
65歳以上単独世帯	21%	18%	23%	20%	22%	42%	32%	23%	34%	21%	19%	28%	34%	20%	15%	20%	20%
うち75歳以上単独世帯	11%	14%	23%	13%	10%	27%	19%	17%	25%	14%	18%	11%	27%	16%	16%	16%	15%
うち85歳以上単独世帯	6%	6%	17%	7%	5%	7%	6%	3%	15%	9%	9%	8%	18%	6%	10%	8%	8%
回答数 (全世帯数)	194	65	35	294	60	67	127	96	102	125	323	75	44	51	170	914	1,796

※WB (ウエイトバック) : 全町値の集計にあたり、久万地区の回答を4倍 (抽出率を他地区と同じ) にした場合の集計値

# (1) 町民の燃料利用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

## ○灯油の利用状況

- 全世帯の92%が、灯油を利用しており、100L以上のホームタンクの保有率は2割程度となっている。
- 灯油利用世帯の1世帯あたりの年間平均購入量は612Lとなっている。

### 灯油機器の保有・利用の有無【複数回答可】

区分	久万エリア				面河エリア			美川エリア				柳谷エリア				合計	WB
	久万	川瀬	父二峰	計	大味川	杣野	計	美川西	美川東	仕七川	計	柳井川	西谷	中津	計		
1.暖房機器 (ストーブ、ヒーター等)	85%	92%	88%	87%	95%	83%	89%	87%	96%	92%	92%	97%	98%	91%	95%	91%	89%
2.ボイラー・給湯器 (風呂、台所等)	33%	45%	44%	37%	44%	33%	38%	37%	29%	34%	33%	32%	30%	38%	33%	35%	36%
3.農業用機器 (温室、乾燥機等)	3%	6%	12%	4%	3%	6%	5%	8%	7%	6%	7%	1%	9%	15%	7%	6%	5%
4.その他	2%	2%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	1%	2%	1%	0%	2%	2%	1%	1%	1%
灯油を使う機器を持っている (上記1つでもあり)	89%	95%	97%	91%	98%	89%	94%	91%	99%	93%	94%	97%	98%	92%	96%	93%	92%
灯油を使う機器は持っていない (灯油は使わない)	11%	5%	3%	9%	2%	11%	6%	9%	1%	7%	6%	3%	2%	8%	4%	7%	8%
回答者数	192	65	34	291	59	66	125	97	103	126	326	77	44	53	174	916	1,789

### 灯油用タンク (ホームタンク) の有無【単回答】

区分	久万エリア				面河エリア			美川エリア				柳谷エリア				合計	WB
	久万	川瀬	父二峰	計	大味川	杣野	計	美川西	美川東	仕七川	計	柳井川	西谷	中津	計		
1.ある	69%	62%	52%	65%	72%	65%	68%	64%	61%	65%	63%	58%	61%	53%	57%	63%	64%
うち100L以上のタンクあり	20%	25%	15%	20%	40%	21%	31%	23%	27%	26%	25%	21%	29%	9%	19%	23%	22%
2.ない	31%	38%	48%	35%	28%	35%	32%	36%	39%	35%	37%	42%	39%	47%	43%	37%	36%
回答者数	163	61	33	257	57	57	114	86	97	113	296	73	41	47	161	828	1,599

### 【灯油利用世帯】1回あたり灯油購入量【数量回答】

区分	久万エリア				面河エリア			美川エリア				柳谷エリア				合計	WB
	久万	川瀬	父二峰	計	大味川	杣野	計	美川西	美川南	仕七川	計	柳井川	西谷	中津	計		
春夏期 (4月~9月)	190	151	161	174	155	213	173	194	269	222	223	147	151	137	144	185	180
秋冬期 (10月~3月)	436	461	325	427	410	403	407	397	587	490	497	376	417	321	370	438	433
年間計	625	612	487	601	566	616	580	591	856	712	719	522	569	458	514	623	612

※WB (ウエイトバック) : 全町値の集計にあたり、久万地区の回答を4倍 (抽出率を他地区と同じ) にした場合の集計値



# (1) 町民の燃料利用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

## ○灯油の購入状況

- 灯油の購入方法は、店舗での直接購入が約8割となっている。
- 購入先は、町内が約8割となっている。

【灯油利用世帯】 灯油の購入方法 【単回答】

区分	久万エリア				面河エリア			美川エリア				柳谷エリア				合計	WB
	久万	川瀬	父二峰	計	大味川	杣野	計	美川西	美川東	仕七川	計	柳井川	西谷	中津	計		
1.自分や家族が直接店舗に行き、ポリタンクで購入する	79%	84%	88%	81%	63%	78%	70%	79%	79%	74%	77%	86%	65%	78%	78%	77%	79%
2.必要な時に電話等で注文し、ポリタンクで配達してもらう	2%	0%	3%	2%	2%	5%	3%	3%	5%	7%	5%	4%	9%	6%	6%	4%	3%
3.必要な時に電話等で注文し、ローリーが来てポリタンクやホームタンクに給油してもらう	14%	13%	9%	13%	34%	15%	25%	13%	14%	19%	16%	5%	23%	16%	13%	16%	14%
4.定期的にローリーが来て、ポリタンクやホームタンクに給油してもらう	5%	2%	0%	3%	0%	2%	1%	3%	0%	0%	1%	1%	2%	0%	1%	2%	3%
5.その他	1%	2%	0%	1%	2%	0%	1%	1%	2%	1%	1%	3%	0%	0%	1%	1%	1%
回答者数	168	62	33	263	59	59	118	89	99	117	305	74	43	49	166	852	1641
店舗購入率 (1)	79%	84%	88%	81%	63%	78%	70%	79%	79%	74%	77%	86%	65%	78%	78%	77%	79%
配達購入率 (2,3,4)	21%	15%	12%	18%	36%	22%	29%	20%	19%	26%	22%	11%	35%	22%	20%	21%	20%

<その他> 家族、知人等が買ってくる (買ってもらう) 等

【灯油利用世帯】 最もよく利用する灯油の購入先 (秋冬期) 【単回答】

区分	久万エリア				面河エリア			美川エリア				柳谷エリア				合計	WB
	久万	川瀬	父二峰	計	大味川	杣野	計	美川西	美川東	仕七川	計	柳井川	西谷	中津	計		
1. 久万の山本石油 (ENEOS)	16%	4%	0%	11%	2%	2%	2%	0%	3%	0%	1%	1%	7%	5%	4%	5%	8%
2. 入野の今井石油 (コスモ)	9%	2%	0%	6%	2%	2%	2%	0%	1%	3%	1%	1%	0%	0%	1%	3%	4%
3. 久万の倉橋石油 (ENEOS)	9%	5%	3%	7%	4%	2%	3%	0%	1%	2%	1%	0%	0%	2%	1%	3%	5%
4. 明神のJASS	20%	0%	0%	13%	9%	0%	4%	3%	0%	1%	1%	0%	0%	2%	1%	5%	9%
5. 直瀬のJASS	0%	46%	0%	10%	0%	7%	4%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	7%
6. 畑野川のJASS	3%	32%	0%	9%	20%	16%	18%	0%	0%	8%	3%	0%	0%	0%	0%	7%	8%
7. みみどのJASS	0%	0%	3%	0%	41%	43%	42%	31%	65%	62%	55%	67%	63%	69%	66%	38%	20%
8. 大川の愛和美川石油 (シェル)	2%	0%	6%	2%	2%	4%	3%	52%	17%	17%	26%	8%	7%	7%	8%	12%	7%
9. 露峰の久保建設 (久保SS)	0%	0%	58%	8%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	5%
10. 久万のホームセンター (コーナン)	19%	5%	3%	14%	2%	7%	4%	4%	2%	6%	4%	8%	10%	7%	8%	8%	11%
11. 町外のがソリスタンド	9%	4%	21%	10%	16%	13%	14%	8%	5%	2%	5%	11%	7%	5%	8%	8%	9%
12. 町外ホームセンター (ダイキ等)	1%	0%	0%	0%	2%	0%	1%	0%	4%	0%	1%	3%	0%	0%	1%	1%	1%
13. JA久万経済センター	11%	4%	6%	9%	2%	5%	4%	3%	0%	0%	1%	0%	5%	2%	2%	4%	6%
回答者数	158	57	33	248	56	56	112	75	92	113	280	72	41	42	155	795	1539
町内SS購入率 (10,11,12以外/回答数)	71%	91%	76%	76%	80%	80%	80%	88%	88%	92%	90%	78%	83%	88%	82%	83%	80%

※WB (ウエイトバック) : 全町値の集計にあたり、久万地区の回答を4倍 (抽出率を他地区と同じ) にした場合の集計値

# (1) 町民の燃料利用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

## ○自動車用燃料の給油状況

- 自動車用燃料の給油によく利用するSS (「最もよく利用」「次によく利用」の合計) は町内SS利用が73%となっている。
- 高齢者のみ世帯 (高齢者単独世帯含む) では、79%となっている。

自動車用の燃料の給油場所【1台目、2台目】全体・回数ベース

区分	久万エリア				面河エリア			美川エリア				柳谷エリア				合計	WB
	久万	川瀬	父二峰	計	大味川	杣野	計	美川西	美川東	仕七川	計	柳井川	西谷	中津	計		
1. 久万の山本石油 (ENEOS)	12%	3%	0%	8%	4%	1%	3%	1%	5%	0%	2%	3%	6%	0%	2%	2%	6%
2. 入野の今井石油 (コスモ)	12%	5%	0%	9%	6%	0%	3%	3%	3%	2%	3%	1%	3%	0%	1%	3%	7%
3. 久万の倉橋石油 (ENEOS)	10%	5%	3%	8%	12%	12%	12%	0%	3%	6%	3%	8%	15%	3%	8%	7%	7%
4. 明神のJASS	19%	1%	0%	12%	4%	0%	2%	3%	0%	0%	0%	1%	0%	4%	2%	6%	9%
5. 直瀬のJASS	1%	39%	0%	10%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	7%
6. 畑野川のJASS	5%	34%	0%	12%	23%	18%	20%	1%	0%	10%	4%	0%	0%	0%	0%	10%	10%
7. みみどのJASS	1%	0%	0%	1%	11%	21%	16%	19%	57%	37%	37%	48%	42%	65%	52%	23%	13%
8. 大川の愛和美川石油 (シェル)	3%	0%	6%	3%	13%	17%	15%	40%	14%	28%	28%	12%	5%	17%	12%	15%	9%
9. 露峰の久保建設 (久保SS)	2%	0%	64%	8%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	6%
10. 町外のガソリンスタンド	35%	14%	28%	29%	28%	29%	29%	33%	17%	16%	21%	28%	29%	11%	23%	27%	27%
回答数 (回数合計)	632	257	116	1,006	226	207	434	298	294	406	998	265	116	181	563	5,193	6,017
町内利用率 (回数ベース)	65%	86%	72%	71%	72%	71%	71%	67%	83%	84%	79%	72%	71%	89%	77%	73%	73%

自動車用の燃料の給油場所【1台目、2台目】高齢者のみ世帯・回数ベース

区分	久万エリア				面河エリア			美川エリア				柳谷エリア				合計	WB
	久万	川瀬	父二峰	計	大味川	杣野	計	美川西	美川東	仕七川	計	柳井川	西谷	中津	計		
1. 久万の山本石油 (ENEOS)	10%	0%	0%	2%	9%	0%	3%	2%	4%	0%	1%	0%	7%	0%	1%	1%	1%
2. 入野の今井石油 (コスモ)	6%	5%	0%	1%	0%	0%	0%	7%	0%	1%	1%	0%	5%	0%	1%	0%	1%
3. 久万の倉橋石油 (ENEOS)	12%	3%	0%	2%	14%	0%	4%	0%	3%	2%	1%	2%	9%	0%	1%	2%	2%
4. 明神のJASS	17%	0%	0%	3%	3%	0%	1%	3%	0%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	1%	2%
5. 直瀬のJASS	0%	56%	0%	5%	0%	4%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	3%
6. 畑野川のJASS	10%	27%	0%	4%	30%	35%	14%	0%	0%	16%	3%	0%	0%	0%	0%	5%	4%
7. みみどのJASS	0%	0%	0%	0%	9%	37%	9%	32%	89%	47%	24%	58%	63%	72%	34%	14%	8%
8. 大川の愛和美川石油 (シェル)	6%	0%	0%	1%	14%	5%	5%	44%	2%	26%	9%	10%	5%	21%	7%	6%	3%
9. 露峰の久保建設 (久保SS)	0%	0%	85%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	2%
10. 町外のガソリンスタンド	38%	9%	15%	8%	20%	19%	9%	12%	2%	9%	3%	28%	10%	6%	9%	7%	7%
回答数 (回数合計)	170	88	37	296	119	78	197	104	140	171	415	134	56	109	298	2,056	2,093
町内利用率 (回数ベース)	62%	91%	85%	73%	80%	81%	80%	88%	98%	91%	93%	72%	90%	94%	83%	83%	79%

※自動車は、各世帯2台目まで、給油場所をよく利用するSS、次によく利用するSSの2箇所を回答  
 ※WB (ウエイトバック) : 全町値の集計にあたり、久万地区の回答を4倍 (抽出率を他地区と同じ) にした場合の集計値

# (1) 町民の燃料利用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

## ○町内のSSが閉鎖されたことによる不便

- 町内のSSが閉鎖となったことによる不便について尋ねたところ、全体では、「よく使っていたガソリンスタンドが閉鎖となったことはない」が59%となっており、「特に困ってはいない」「特に影響や問題はない」を併せると、閉鎖による影響がない世帯が約7割となっている。
- 一方、地区による違いが見られており、面河エリア、柳谷エリアでは、「よく使っていたガソリンスタンドが閉鎖となり、とても不便になった」が5割を超えている。

町内SSの閉鎖による不便【単回答】

区分	久万エリア				面河エリア			美川エリア				柳谷エリア				合計	WB
	久万	川瀬	父二峰	計	大味川	杣野	計	美川西	美川東	仕七川	計	柳井川	西谷	中津	計		
1. よく使っていたガソリンスタンドが閉鎖となり、とても不便になった	2%	5%	27%	6%	51%	52%	51%	9%	19%	39%	24%	64%	71%	69%	67%	30%	18%
2. よく使っていたガソリンスタンドが閉鎖となり、多少不便になったが、特に困ってはいない	4%	3%	33%	7%	14%	21%	18%	9%	11%	24%	16%	21%	24%	14%	20%	14%	11%
3. よく使っていたガソリンスタンドが閉鎖となったが、特に影響や問題はない	4%	3%	6%	4%	11%	5%	8%	10%	6%	8%	8%	7%	0%	8%	6%	6%	5%
4. よく使っていたガソリンスタンドが閉鎖となったことはない	83%	83%	24%	76%	19%	9%	14%	69%	57%	24%	47%	4%	3%	4%	4%	43%	59%
5. その他	6%	5%	9%	6%	5%	13%	9%	2%	8%	5%	5%	4%	3%	4%	4%	6%	6%
回答者数	178	59	33	270	57	56	113	87	90	119	296	76	38	49	163	842	1,652

<その他>

- 町内で給油していない
- 土日は困るときがある 等

# (1) 町民の燃料利用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

## ○今後の燃料利用についての不安

- 今後の燃料利用についての不安について尋ねたところ、「高齢になり、自分で車を運転して灯油を買いに行けなくなるのではないかという不安」が36%で最も多く、次いで「いつも利用しているガソリンスタンドが閉鎖してしまうのではないかという不安」が34%となっている。
- 地区別に見ると、久万エリアの川瀬地区は、「いつも利用しているガソリンスタンドが閉鎖してしまうのではないかという不安」が65%となっており、他地域と比べて高くなっている。また、面河エリアの杣野地区、美川エリアの美川南地区、柳谷エリアの柳井川地区、中津地区では、「高齢になり、自分で車を運転して灯油を買いに行けなくなるのではないかという不安」が5割を超えている。

今後の燃料利用についての不安【複数回答可】

区分	久万エリア				面河エリア			美川エリア				柳谷エリア				合計	WB
	久万	川瀬	父二峰	計	大味川	杣野	計	美川西	美川東	仕七川	計	柳井川	西谷	中津	計		
1. いつも利用しているガソリンスタンドが閉鎖してしまうのではないかという不安	23%	65%	38%	34%	29%	35%	33%	26%	35%	33%	31%	39%	29%	34%	35%	33%	34%
2. 豪雨や豪雪等で道路通行止があった場合に、灯油が入手できなくなるのではないかという不安	19%	31%	35%	24%	33%	34%	33%	24%	21%	34%	27%	45%	51%	43%	46%	30%	27%
3. 灯油の配達をしてくれなくなってしまうのではないかという不安	10%	8%	6%	9%	29%	24%	27%	15%	17%	23%	19%	19%	29%	11%	19%	17%	13%
4. 高齢になり、自分で車を運転して灯油を買いに行けなくなるのではないかという不安	26%	43%	32%	31%	40%	53%	47%	27%	50%	45%	41%	55%	46%	57%	54%	41%	36%
5. 特に不安はない	40%	14%	32%	33%	14%	15%	14%	33%	16%	17%	22%	11%	12%	17%	13%	23%	28%
6. その他	4%	3%	3%	4%	2%	3%	3%	8%	0%	2%	3%	4%	2%	2%	3%	3%	4%
回答者数	186	65	34	285	58	62	120	93	98	123	314	74	41	47	162	881	1,736

<その他>

- 燃料費の高騰 等

# (1) 町民の燃料利用状況とニーズ等（町民アンケート調査）

## ○今後の久万高原町のガソリンスタンドについての意見・考え

- 今後の久万高原町のガソリンスタンドについてどのように考えるか尋ねたところ、全体では「これ以上ガソリンスタンドが減らないでほしい」が60%で最も高い。
- 地区別に見ると、面河エリア、柳谷エリアでは「各地区に1箇所以上あればよい（面河と柳谷は再開してほしい）」が6割を超えており、近年SSが無くなった地区の住民においては、SSの設置・再開ニーズが高くなっている。

### 今後の久万高原町のガソリンスタンドについての意見・考え【複数回答可】

区分	久万エリア				面河エリア			美川エリア				柳谷エリア			合計	WB	
	久万	川瀬	父二峰	計	大味川	杣野	計	美川西	美川東	仕七川	計	柳井川	西谷	中津			計
1. 町内にガソリンスタンドが無くなっても仕方ない	1%	2%	6%	2%	0%	0%	0%	1%	1%	1%	1%	3%	0%	2%	2%	1%	1%
2. 町内に1箇所以上あればよい	12%	5%	0%	9%	3%	3%	3%	4%	4%	4%	4%	0%	2%	4%	2%	5%	7%
3. 各地区（旧町村）に1箇所以上あればよい（面河と柳谷は1箇所もないので再開してほしい）	17%	17%	27%	18%	57%	66%	61%	25%	23%	36%	29%	68%	76%	74%	72%	38%	28%
4. これ以上ガソリンスタンドが減らないようしてほしい	65%	77%	64%	67%	38%	31%	34%	69%	72%	57%	65%	28%	22%	16%	23%	54%	60%
5. その他	5%	0%	3%	4%	2%	0%	1%	1%	0%	3%	1%	1%	0%	4%	2%	2%	3%
回答者数	187	65	33	285	58	64	122	93	95	120	308	76	41	50	167	882	1,737

#### <その他>

- 高齡化で、車の台数も減るので、無理は言えない。
- みみどの給油所は存続してほしい。
- 自宅から5km以内がよい。
- 久万に1箇所、美川に1箇所以上はあって欲しい。
- 各地区1ヶ所以上+土日祝の開店
- セルフサービス型のスタンドがあっても良いと思う。むしろその方が良い。その上で夜21:00位までの営業形態にしてほしい。
- 土日に、どこか必ず開けてほしい。
- 公設民営でも面河・柳谷にはGSがあったほうがよい。
- 美川支所を再開してほしい。
- 町内でだれでもいつでも便利に使えるスタンドがあれば良い。
- 久万高原町の中心に行かなくてもいいように、露峰、二名や、父野川地区にガソリンスタンド増やしてほしい。
- これ以上GSが減らずに、面河・柳谷の再開してほしい。
- よく使っていたスタンドが面河の入口になるので再開してほしい。
- 仕七川に欲しい。

# (1) 町民の燃料利用状況とニーズ等（町民アンケート調査）

## ○自由意見等

- 特に、価格、営業日・営業時間、SSの維持・再開、将来の燃料供給への不安といった意見が多くみられた。

<主な自由意見>

- 価格等
  - 松山に比べ久万は高いから、松山にわざわざ買いに行く。
  - 久万も時々利用するが松山に比べ価格が高いため松山へ行く時に安い所で購入する時が多い。
  - 燃料代が高騰してゆくの不安。
  - 自分の足として使っている車の燃料代が上がると家計を圧迫して困ります。
- 営業日、営業時間等
  - 日曜日に町外から来た人に、スタンドを聞かれてどこも、営業していない日がたびたびある。せっかく来てくれているのに、残念です。
  - 土、日曜日どこか1ヶ所でもガソリンスタンドが営業していると安心する。
  - 平日の夜19:00には町内のスタンドは全て閉まってしまうので、正直仕事帰りに行くには間に合わないことが多く、かといって日曜日はほぼスタンドが閉まっているので、正直とても不便を感じています。
- SSの維持・再開等
  - 国道494号線上、（仕七川、面河）に1ヶ所ガソリンスタンドが欲しい。
  - 各地区（旧町村）に1箇所以上あればよい（面河と柳谷は1箇所もないので再開してほしい）をぜひお願いしたい。
  - 燃料購入に15Kもかけて行く経費、（2ℓ-300円も余分にかかる）。地域にSSが絶対必要である。
  - 今、ある所のガソリンスタンドはなくさないでほしい。
- 今後の燃料供給への不安等
  - 現在は車の運転も出来るので、なんとかこなしているが、この先自分で、購入手段がなくなると不安ばかりです。ポリタンクひとつにしても重くて運ぶのに苦労します。配達もして下さるそうですが費用がかかるので心配です。
  - 今現在片道5kmかけてスタンドに行っています。特に冬場雪など凍結道路などで不安です。車内は灯油のニオイもあります。配達になると割高ですので自分で動ける間は運転したいのですがこれから先より遠くに行かなくなるといけないのは心配です。今の場所ですべて続けてほしいです。
- その他
  - 全て、自動運転化、電気だけで生活ができたら明るい未来が来る。
  - ガソリン買入と一緒にタイヤの空気圧等見てもらっているのを従業員が少ないとお願いしづらくなります。
  - 化石燃料に頼らない暮らしを自治体がサポートして欲しい。（・太陽光発電・バイオマス・太陽熱温水器）等々
  - 今後EVの普及によりガソリンスタンドが将来的になくなるのではないかと。これに反して、EVの充電スタンドの普及（現在のガソリンスタンドに併設されるか）も不安である。
  - 自分で購入できない人のためなるべく近くにまた配達網を備えておいてほしいと思います。
  - セルフスタンドが町内にあると利用しやすいと思う。24時間利用可能であること。
  - 電気自動車購入の補助金や充電スタンドで、対応できる事から、やってほしい。
  - ガソリンスタンドは燃料だけではやっていけない話は聞くので大きな場所での一ヶ所として便利があった方が残るのではないかと。
  - 車の運転が出来なくなった時、灯油等の配達出来るシステムがあれば良い。

## (2) 町内の主要需要家の燃料需要と見通し（事業者ヒアリング結果）

- 町内SSから燃料を調達している事業者が多いが、価格の安さ等を理由に、町外から燃料を調達している事業者も見られる。
- 今後の燃料使用量は、変わらないとする声が多いものの、本町の主要産業のひとつである建設業からは、今後燃料使用量は減るとする声もある。

	事業者A	事業者B	事業者C	事業者D	事業者E	事業者F	事業者G	
事業内容 (従業者数)	土木工事、林業、素材 生産（19人）	土木工事、林業 （27人）	医療・福祉 （87人）	宿泊、飲食サービス （13人）	砕石業 （23人）	林業 （27人）	運輸業 （12人）	
灯油	年間使用量 (用途)	1800L (主に暖房)	830L (主に暖房、給湯)	使用なし	3,500L (主に暖房)	1,398L (主に暖房)	1,640L (主に暖房)	400L (主に暖房)
	購入先 (理由)	町内（以前から取引）	JA（売掛、配達が柔軟・迅速）	使用なし	町外（価格が安い、配達が柔軟・迅速）	町内（事業所から近い）	町内（以前から取引）	町内（事業者から近い）
	今後の見通し	今後も使用量はあまり変わらないと思う	今後も使用量はあまり変わらないと思う	使用なし	今後も使用量はあまり変わらないと思う	今後も使用量はあまり変わらないと思う	今後も使用量はあまり変わらないと思う	今後も使用量はあまり変わらないと思う
ガソリン	年間使用量 (用途)	16,000L (自動車9台)	19,340L (自動車13台)	7,400L (自動車9台)	400L (自動車1台)	12,100L (自動車18台)	15,857L (自動車18台)	4,405L (自動車5台)
	購入先 (理由)	町内（以前から取引）	JA（売掛など融通が利く） 町内（町内SSを応援）	町内（事業所に近い、以前から取引）	町内（事業所から近い）	町内（事業所から近い）	町内（事業者や現場に近い）	町内（事業所から近い）
	今後の見通し	今後、事業の見直し・縮小等により使用量は減ると思う	今後、事業の見直し・縮小等により使用量は減ると思う	今後も使用量はあまり変わらないと思う	今後、燃費向上やEV転換等により使用量は減ると思う	今後も使用量はあまり変わらないと思う	今後も使用量はあまり変わらないと思う	今後も使用量はあまり変わらないと思う
軽油	年間使用量 (用途)	59,000L (トラック等9台、建設機械等30台、除雪車2台)	148,000L (トラック等17台、建設機械等20台、除雪車3台)	432L (ワゴン1台)	使用なし	272,910L (トラック等7台、他2台)	164,395L (トラック等13台、機材等21台)	20,351L (トラック等18台、機材等3台)
	購入先 (理由)	町内（以前から取引）	町外（配達が柔軟・迅速）	町内（事業所に近い、以前から取引）	使用なし	町外（価格が安い） 一部場内用は町内（事業所から近い）	町内（事業者や現場に近いから）	町内（以前から取引、事業者に近いから）
	今後の見通し	今後、事業の見直し・縮小等により使用量は減ると思う	今後、事業の見直し・縮小等により使用量は減ると思う	今後も使用量はあまり変わらないと思う	使用なし	今後も使用量はあまり変わらないと思う	今後も使用量はあまり変わらないと思う	今後も使用量はあまり変わらないと思う
その他	自社ローリーで軽油800L 備蓄（災害時用）		施設内暖房等はA重油（約5万L） 自家発電機用に軽油300L備蓄（1日稼働分）	浴場ボイラーはA重油（約3万L）		灯油200L、ガソリン100L、軽油1200L備蓄	軽油400L備蓄	

# (3) 久万高原町の燃料需要量の推計

## ① 現状の需要量の推計

### ○灯油

項目	数値	単位	出典・根拠
① 1世帯当たり年間灯油消費量	612	L	町民アンケート調査より設定（世帯平均）
② 一般世帯数	4,161	世帯	令和4年度11月時点世帯数
③ 灯油機器保有世帯率	92.3	%	町民アンケート調査より設定
④ 一般世帯年間消費量（総量）	2,350	KL	①×②×③

### ○ガソリン・軽油

A 自動車保有台数 (台)					出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	
2020年3月末	2,799	2,097	268	2,415	国土交通省四国運輸局
B 燃料別台数比率					出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	
ガソリン	32%	96%	-	100%	国土交通省「自動車燃料消費量統計調査」加工集計
軽油	68%	4%	100%	-	
C 保有台数推計値 (台)					出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	合計
ガソリン	894	2,023	-	2,415	5,332
軽油	1,905	74	268	-	2,247
					A×B
D 稼働率					出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	
ガソリン	51.0%	66.5%	0.0%	67.2%	国土交通省「自動車燃料消費量統計調査」加工集計
軽油	52.1%	52.5%	53.6%	-	
E 稼働台数推計値 (台)					出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	合計
ガソリン	456	1,345	-	1,623	3,425
軽油	993	39	144	-	1,176
					C×D
F 1台あたり年間走行キロ (km/台)					出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	
ガソリン	11,164	7,960	-	7,330	国土交通省「自動車燃料消費量統計調査」加工集計
軽油	18,448	9,611	22,344	-	
G キロあたり燃料消費量 (L/km)					出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	
ガソリン	0.101	0.083	-	0.069	国土交通省「自動車燃料消費量統計調査」加工集計
軽油	0.232	0.118	0.265	-	
H 1台あたり年間燃料消費量 (L)					出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	
ガソリン	1,123	663	-	508	F×G
軽油	4,284	1,131	5,930	-	
I 年間燃料消費量(町民総量) (L)					出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	合計
ガソリン	512,306	891,254	-	825,383	2,228,944
軽油	4,254,046	43,999	852,182	-	5,150,226
					E×H
H' 参考：稼働車両の1台あたり月間燃料消費量 (L)					出典・根拠
	貨物	乗用	軽自動車		平均
ガソリン	94	55	42		54.2
軽油	357	94	-		304.6
					F×G/12

### 【久万高原町の現在燃料需要量（年間）】

- 灯油：2,350KL/年
- ガソリン：2,229KL/年
- 軽油：5,150KL/年

※灯油には、事業所での使用量（事務所での暖房用等）は含まない

※ガソリン・軽油には、自動車登録されていない車両・機材等の使用量は含まない



# (3) 久万高原町の燃料需要量の推計

## ② 将来需要量の推計

- ✓ 国の燃料需要見通し、今後の久万高原町の将来推計人口等から将来の町内燃料需要を推計したところ、**2030年までに2割減（現在の80%）、2040年には35%減（現在の65%）程度に減少するものと推計される。**
- ✓ 軽油は微減であるが、ガソリン、灯油は大きく減少するものと推計され、軽油を除くと、2030年には現在の6割程度、2040年には現在の1/3程度の需要量になるものと推計される。

○全国の将来燃料需要増減率（経済産業省「2022年～2026年度の石油製品需要見通し」（令和4年3月）より）

油種	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	備考
ガソリン	100.0%	92.9%	80.2%	69.2%	59.7%	2026年以降は年率平均▲2.9%と想定
軽油	100.0%	101.2%	98.2%	95.3%	92.5%	2026年以降は年率平均▲0.6%と想定
灯油	100.0%	84.6%	74.5%	65.6%	57.8%	2026年以降は、年率平均▲2.5%と想定

○久万高原町の将来人口増減率と全国の将来人口増減率の比

項目	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	備考
久万高原町人口増減率（2020年比）	100.0%	85.3%	72.6%	61.8%	52.3%	久万高原町将来人口（社人研推計）
全国人口増減率（2020年比）	100.0%	97.8%	95.1%	91.9%	88.5%	全国の将来人口推計より
久万高原町／全国 比	1.00	0.87	0.76	0.67	0.59	当町増減率/全国増減率

○久万高原町の将来燃料需要増減率（2020年基準）

油種	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	備考
ガソリン	100.0%	81.1%	61.2%	46.5%	35.3%	全国需要見通し×（当町／全国の比）
軽油	100.0%	101.2%	98.2%	95.3%	92.5%	全国需要見通し
灯油	100.0%	73.8%	56.9%	44.1%	34.2%	全国需要見通し×（当町／全国の比）

※軽油は、町内の公共事業や農林業、運送業等の需要に大きく影響を受けるとみられるが、町内の人口減少によるこれら事業活動への影響の予測は困難なため、ここでの軽油の需要推計に町内の人口減少は考慮しない。

○町内燃料需要量

油種	2020年
ガソリン	2,229 KL
軽油	5,150 KL
灯油	2,350 KL
計	9,730 KL

自動車保有台数、燃費等の統計データより推計  
自動車保有台数、燃費等の統計データより推計  
町民アンケートの世帯あたり使用量より推計

○将来燃料需要推計

油種	町内需要量 (KL)					2020年比増減率				
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
ガソリン	2,229	1,807	1,365	1,037	787	100%	81%	61%	47%	35%
軽油	5,150	5,212	5,058	4,908	4,762	100%	101%	98%	95%	92%
灯油	2,350	1,735	1,337	1,037	803	100%	74%	57%	44%	34%
計	9,730	8,754	7,760	6,982	6,352	100%	90%	80%	72%	65%
(軽油割合)	53%	60%	65%	70%	75%					
(軽油除く)	4,579	3,542	2,702	2,075	1,590	100%	77%	59%	45%	35%

※将来燃料需要は、町内（町民、町内事業者）の燃料需要を推計したものであり、町内SSの販売量ではない。

# 【参考】経済産業省「2022年～2026年度の石油製品需要見通し」の概要

経済産業省「2022年～2026年度の石油製品需要見通し」（令和4年3月）

	実績	実績見込	見通し					構成比	2021/2026	2026年度	
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度				
ガソリン	45,233	45,220 ▲0.0	45,382 +0.4	44,391 ▲2.2	43,177 ▲2.7	42,016 ▲2.7	40,808 ▲2.9	▲2.0	▲9.8	29.6	28.8
ナフサ	40,323	42,561 +5.6	41,372 ▲2.0	41,615 +0.6	41,374 ▲0.6	40,974 ▲1.0	40,154 ▲2.0	▲1.2	▲5.7	27.9	28.3
ジェット燃料油	2,733	3,506 +28.3	4,072 +16.1	4,321 +6.1	4,376 +1.3	4,433 +1.3	4,484 +1.2	+5.0	+27.9	2.3	3.2
灯油	14,498	13,933 ▲3.9	13,486 ▲3.2	13,074 ▲3.1	12,668 ▲3.1	12,259 ▲3.2	11,957 ▲2.5	▲3.0	▲14.2	9.1	8.4
軽油	31,869	32,146 +0.9	32,650 +1.6	32,579 ▲0.2	32,395 ▲0.6	32,252 ▲0.4	32,043 ▲0.6	▲0.1	▲0.3	21.1	22.6
A重油	10,226	10,021 ▲2.0	9,730 ▲2.9	9,400 ▲3.4	9,017 ▲4.1	8,680 ▲3.7	8,355 ▲3.7	▲3.6	▲16.6	6.6	5.9

出典：経済産業省「2022年～2026年度の石油製品需要見通し」（案）（令和4年3月）をもとに作成

## 試算の前提

- 経済前提として主に内閣府発表の「令和4年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度（令和4年1月17日閣議決定）」、「中長期の経済財政に関する試算（令和4年1月14日経済財政諮問会議提出）」を採用、その他各シナリオの経済見通しも加味。

年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
実質GDP成長率	3.2%	1.3%	1.9%	1.6%	1.0%

- 新型コロナウイルス感染症による影響については、上記の経済見通しをベースとしつつ、各油種への個別の影響についても考慮。
- 為替、原油価格等の価格要因についても上記の経済見通しの前提に含まれており、今回見通しにおいて追加的に価格要因の考慮はしない。
- カーボンニュートラルに向けた動きについては、電力部門や産業部門での脱炭素化の動きが進むことによる影響を個別に考慮。
- 電力用C重油の需要見通しについては、一部電源の供給が見通せないことから策定せず。

## 油種毎の考慮事項

### <ガソリン>

- EV・PHV等次世代乗用車については、政府のグリーン成長戦略等に基づき販売台数を想定し、ガソリン需要の減少要因として考慮

### <灯油>

- 産業用については各産業における燃料転換や効率改善の進展を、民生用についても、家庭用を中心とした暖房・給湯エネルギー源の転換が続くことを考慮

### <軽油>

- 堅調な経済成長に下支えされ貨物輸送量はほぼ横ばいで推移すると想定されるものの、トラック燃費の着実な改善や小型EVトラックの導入等を考慮

出典：経済産業省「2022年～2026年度の石油製品需要見通し」（案）（令和4年3月）をもとに作成

# (3) 久万高原町の燃料需要量の推計

## ③ 将来需要量の推計（地区別）

- ✓ 地区別の人口や産業構造をもとに、エリア（旧町村）別、地区別の将来燃料需要量を推計したところ、特に面河エリア、柳谷エリアは大きく需要が減少する。主に町民が利用するガソリン、灯油の合計で見ても、久万エリア以外では、過疎SSにおける事業継続のボーダーラインとされる月販50KL（年販600KL）を下回る需要量となる。

全油種の地区別将来需要量推計（ガソリン、軽油、灯油） 単位：KL

地区	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
全町	9,730	8,754	7,760	6,982	6,352
久万	4,104	3,714	3,289	2,949	2,667
川瀬	962	825	697	598	520
父二峰	1,289	1,222	1,133	1,061	999
大味川	467	430	390	358	333
杣野	163	125	97	77	61
美川西	738	687	622	572	534
美川南	574	496	431	387	349
仕七川	509	436	374	328	292
柳井川	544	498	449	412	383
西谷	95	66	50	37	29
中津	286	257	227	204	184

地区	2030年	2040年
全町	7,760	6,352
久万	5,120	4,186
面河	487	394
美川	1,428	1,176
柳谷	725	596

地区別将来需要量推計（ガソリン） 単位：KL

地区	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
全町	2,229	1,807	1,365	1,037	787
久万	1,030	882	688	539	420
川瀬	314	255	192	145	109
父二峰	162	133	104	81	62
大味川	79	59	43	30	23
杣野	68	51	38	28	20
美川西	123	100	72	53	42
美川南	131	88	60	44	28
仕七川	134	100	72	51	36
柳井川	88	64	43	30	20
西谷	36	22	16	11	7
中津	64	51	37	27	19

地区	2030年	2040年
全町	1,365	787
久万	984	592
面河	81	42
美川	204	107
柳谷	96	46

地区別将来需要量推計（軽油） 単位：KL

地区	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
全町	5,150	5,212	5,058	4,908	4,762
久万	1,982	2,006	1,947	1,889	1,833
川瀬	325	328	319	309	300
父二峰	945	957	928	901	874
大味川	310	314	305	296	287
杣野	21	21	21	20	20
美川西	487	493	478	464	450
美川南	310	314	305	296	287
仕七川	233	236	229	222	215
柳井川	367	371	360	350	339
西谷	14	14	14	13	13
中津	155	157	152	148	144

地区	2030年	2040年
全町	5,058	4,762
久万	3,194	3,007
面河	326	307
美川	1,012	952
柳谷	527	496

地区別将来需要量推計（灯油） 単位：KL

地区	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
全町	2,350	1,735	1,337	1,037	803
久万	1,092	825	654	520	414
川瀬	324	241	186	144	111
父二峰	181	132	101	79	62
大味川	78	56	42	32	24
杣野	74	52	39	29	22
美川西	127	94	73	55	43
美川南	133	93	66	48	34
仕七川	142	100	74	55	41
柳井川	89	63	46	33	24
西谷	45	29	19	13	9
中津	66	49	38	29	22

地区	2030年	2040年
全町	1,337	803
久万	941	587
面河	80	45
美川	212	117
柳谷	103	54

＜燃料需要量の各地区への配分方法＞

- ガソリン：各地区の20-84歳人口の将来推計結果をもとに、需要量を各地区に配分
- 灯油：各地区の総人口の将来推計結果をもとに、需要量を各地区に配分
- 軽油：軽油利用が多い業種として、農林業、鉱業、採石業、砂利採取業、建設業、木材・木製品製造業、窯業・土石製品製造業、道路旅客運送業、道路貨物運送業を対象に、各地区の当該業種従業者数をもとに、需要量を各地区に配分（H28経済センサスの数値を利用）

## (4) 久万高原町における燃料需要及びニーズ等の整理

### ○町内SSの利用状況等

- ✓ 【ガソリン】町民が町内SSで給油する割合は73%（回数ベース）となっている。
- ✓ 【軽油】町内では、特に林業、建設業の軽油需要が高く、町内SSにおいても大口需要となっている。一方、これら大口需要家からは、今後の使用量は減る見通しとの声もある。
- ✓ 【灯油】9割以上の世帯が灯油を使用しているが、町内SSで購入する割合は8割で、うち店舗購入（来店購入）が8割、配達購入が2割となっている。

### ○町民の燃料供給へのニーズ・不安

- ✓ 町内のSSについて、「町内からこれ以上のSSが減らないでほしい」という声が多く見られたほか、近年SSが閉鎖となった地区の世帯からは、「地区内のSSを再開してほしい」といった意向も見られている。
- ✓ 一方、「（松山市内と比べて）価格が高い」「営業時間が短い」「土日も開店してほしい」といった意見も見られている。
- ✓ 灯油については、SSの閉鎖や高齢化等により、調達への不安も見られている。

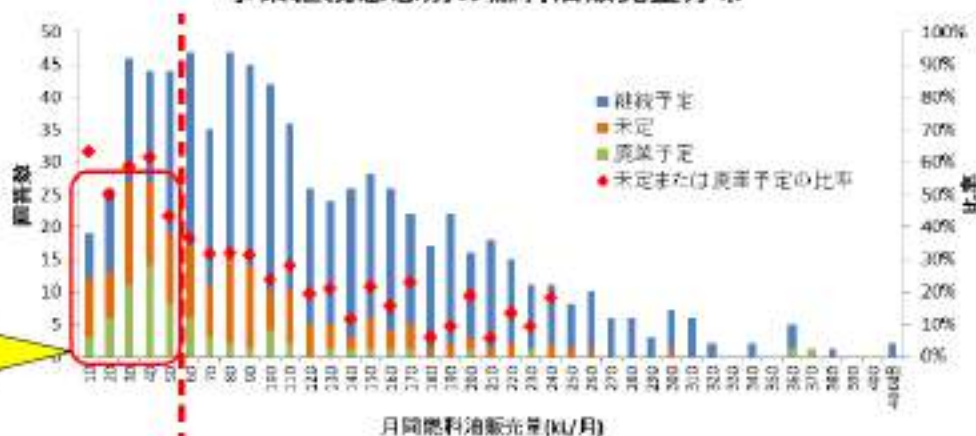
### ○地域の燃料需要の見通し

- ✓ 国の燃料需要見通し、今後の久万高原町の将来推計人口等から将来の町内燃料需要を推計したところ、2030年の町内燃料需要は全体で7800KLと推計される。このうち約2 / 3に相当する5100KLは、久万エリアの需要量である。
- ✓ 油種内訳を見ると、ガソリン、灯油は、2030年には現在の6割程度、2040年には現在の1 / 3程度の需要量になるものと推計される。軽油は、現状で町内需要は大きく、将来も微減傾向であるが、農林業や建設業など産業利用が多く、かならずしも近隣（町内）からの調達が前提でないこと、今後の脱炭素化や公共工事動向等によっては軽油需要が大きく変化する可能性があること等を想定すると、軽油の将来需要は流動的であるといえる。
- ✓ 町民の生活に大きく影響するガソリン・灯油の2030年の燃料需要は約2700KLと推計されるが、一般的にガソリンスタンドが自立的に収支を確保できる最低水準が年販600L（月販50KL）であることを考慮すると、これはSS4箇所程度の需要量に相当する。

## 2.1 事業継続に関する要因分析：経営面の課題

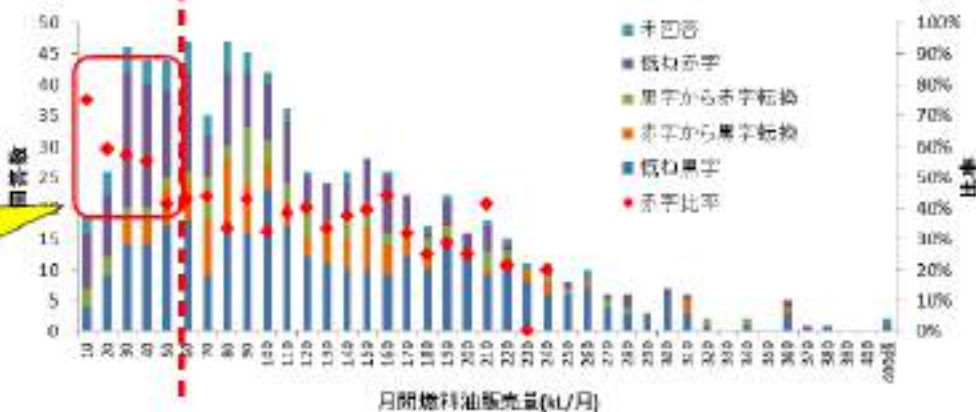
- ◆ 販売量別の事業継続意思、経営状況を分析すると、月間燃料油販売量が50kLを下回るSSは、今後の事業継続が不透明あるいは赤字経営の割合が大きい。

事業継続意思別の燃料油販売量分布



未定または廃業予定のSSの割合が高い

経営状況別の燃料油販売量分布



赤字経営のSSの割合が高い

### 3. 久万高原町におけるSS過疎地対策の方針と取組

---

# (1) 久万高原町における燃料供給体制維持の基本方針と取組方向

## ① 町内の燃料供給体制維持・確保の基本方針

- ✓ SSは、生活を支える燃料供給拠点であることから、**既存のSSの維持（少なくとも地区1箇所以上の維持）**を図る。維持に向けては、町民の**町内SS利用の促進**を図るほか、事業者のニーズに応じて、地上タンク型SSを導入してローコスト化を図る。
- ✓ 一方、町内の燃料需要は今後減少し、燃料販売のみでの事業継続は難しくなっていくものと見られることから、既存事業者の**経営効率化や油外サービス等の新事業展開等への支援**を行い、既存SS事業者の燃料供給機能の維持を図る。
- ✓ なお、現在地区内にSSが無い面河エリア、柳谷エリアでは、SSの設置・再開を求める声も多いが、現状では、自立的な経営が可能な販売量（燃料需要）の確保は難しい。そのため、灯油については、まずは**灯油供給体制の拡充等により、利便性の確保や供給不安の是正を図ることとし**、ガソリンや軽油の供給を含めた**SSの設置・再開については、地域の実情を踏まえた持続可能な運営方策等について引き続き検討を行っていくこととする。**

## ② 町内の燃料供給体制維持・確保に向けた取組方向

### ○町民の町内SS利用促進と情報提供

- 町内SS利用を促すチラシ・広報等の配布によって町内SS利用（町内利用率の向上）を促すほか、町民限定のクーポンなど、町内SSを利用するきっかけとなるキャンペーン等の実施を検討する。
- なお、町民アンケートからは、価格、営業時間、定休日等に関する意見等も見られているが、これらの背景や要因等についても丁寧に情報を提供し、町内SSに対する正しい理解促進も併せて進めていく。また、町民からのニーズが多い営業時間延長、土日営業等について、効果を検証するための実証実験の実施等も検討する。

### ○灯油の供給体制の拡充

- 灯油については、将来の供給不安が見られる一方で、配達利用率は2割程度であることから、SS事業者、関連事業者及び行政との連携による、配達サービスの効率化や拡充を図り、利便性の向上と供給不安の是正を図る。
- 具体的には、灯油配送の共同化の検討や、灯油ホームタンク設置やIoTを活用した配送効率化、簡易計量機によるミニ供給拠点設置等について検討する。

### ○既存SS事業者への経営効率化や油外サービス等の新事業展開への支援

- 燃料需要が減少する中でも、既存SSの燃料供給機能が維持されるよう、経営効率化や燃料販売以外の事業展開への支援を行う。
- 具体的には、日用品や観光土産品などの物販機能、コインランドリーやカフェなど、燃料販売以外のサービス機能付加による誘客促進や、地域脱炭素化に関連するエネルギー関連事業への新規参入や事業転換への支援（人材育成、設備投資等の支援等）も検討する。

### ○地上タンク型SSの導入によるローコスト化

- 既存SSのうち、地下タンクの更新期限が迫っているSSについては、事業者のニーズを踏まえ、地上タンク型SSの導入を支援する。

### ○燃料供給体制の維持に向けた体制づくりと管理

- 面河、柳谷エリアをはじめ町内の持続可能な燃料供給方策の検討や、各取組の効果的な推進方策等の検討を行うための組織を設置し、引き続き課題解決や各地域の状況に沿った取組の進捗を図るほか、継続的な実態把握や、町内SS事業者を含む関係者間の情報交換、必要な人材の確保・育成等を進める。

## 参考：SSが閉鎖した地区におけるSS再開可能性の検討

- ・ 面河エリア、美川エリアのうち仕七川地区、柳谷エリアでは、近年SSが閉鎖となり、町民アンケートからはSS再開を求める声も比較的多く見られている。
- ・ 一方で、今後はさらに燃料需要の減少が見込まれることから、これら各地区においてSSを再開した場合の事業シミュレーションを実施し、採算性について検証を行った。

### <事業検証ケースと想定条件>

#### ケース1：面河エリア、仕七川地区の住民の利用を想定したSSを、面河エリアもしくは仕七川地区内に設置・再開

- 面河エリア住民の多くは、生活行動において仕七川地区を通過する機会が多いことから、仕七川地区内に新たに地上タンク型SS（ガソリン、軽油、灯油）を設置

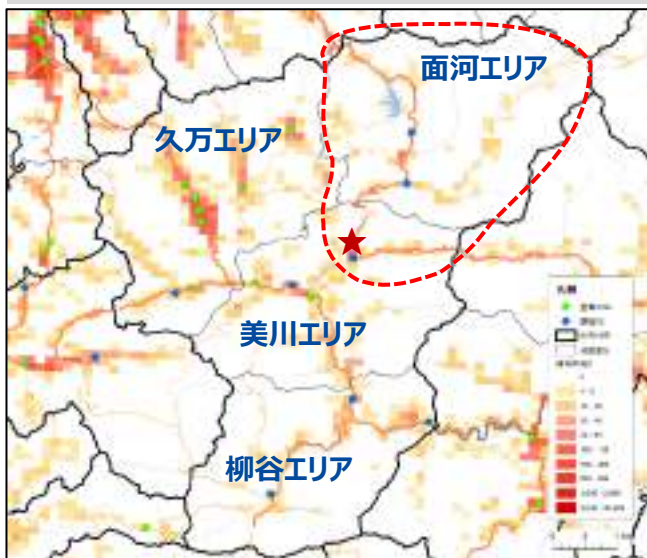
#### ケース2：柳谷エリアの住民の利用を想定したSSを、柳谷エリア内に設置・再開

- 柳谷エリアの中心部である柳井川地区内に新たに地上タンク型SS（ガソリン、軽油、灯油）を設置

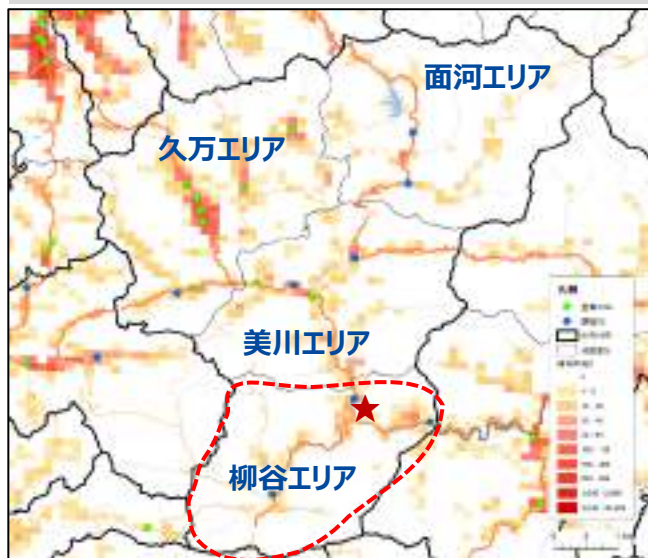
#### ケース3：面河エリア、仕七川地区、柳谷エリアの住民の利用を想定した巡回型SSを導入

- 1日に、松山市内（出庫・積込）～渋草地区～仕七川地区～柳井川地区～松山市内（帰庫）を巡回する巡回型SS（ガソリンのみ）を導入
- 各地区に地上設備（ローリー直結型計量機及び安全対策設備等）を設置

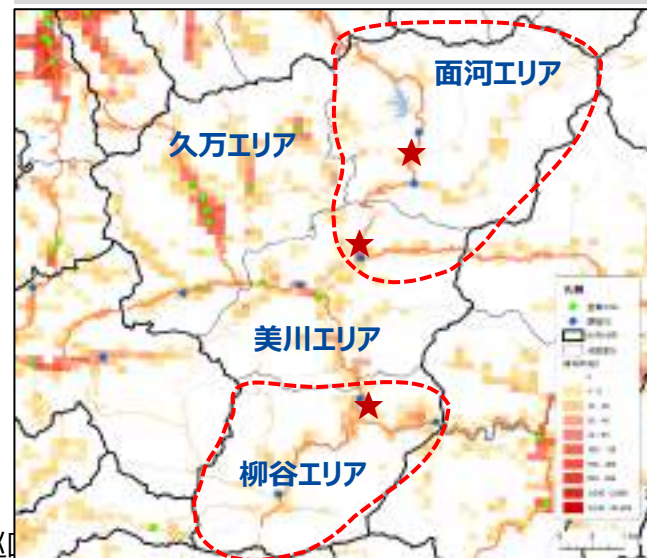
ケース1の利用想定範囲とSS設置位置



ケース2の利用想定範囲とSS設置位置



ケース3の利用想定範囲とSS（地上設備）設置位置



※：上記の地上タンク型SS、巡回型SSや、SSの設置位置等は、事業シミュレーションのために与件として想定するものであり、これらの設置・導入を前提とするものではない。



# 参考：SSが閉鎖した地区におけるSS再開可能性の検討 ケース1

## ケース1：面河エリア、仕七川地区の住民の利用を想定したSSを、面河エリアもしくは仕七川地区内に設置・再開

### (1) 販売量の想定（面河エリア、美川エリアのうち仕七川地区の住民のうち、SS再開意向を有する全ての住民が利用すると想定＝想定される最大の販売量）

- ・【ガソリン】各対象地区の将来燃料需要量に、町民アンケートで得られた地区内SS利用率（※1）を乗じたものを販売量として想定
- ・【軽油】個人需要のみを対象とし、町民アンケートで得られた地区ごとの農機等の軽油給油量に、町民アンケートで得られた地区内SS利用率（※1）を乗じたものを販売量として想定
- ・【灯油】各対象地区の将来燃料需要量に、町民アンケートで得られた地区内SS利用率（※1）及び店舗購入率（※2）を乗じたものを販売量として想定

※1：町民アンケートで「各地区（旧町村）に1箇所以上あればよい。（面河と柳谷は1箇所もないので再開してほしい。）」と回答した割合 →地区内SS利用意向を有する層とみなす。  
 ※2：店舗購入率：町民アンケートで、灯油の購入方法について「1.自分や家族が直接店舗に行き、ポリタンクで購入すると回答した割合 →地区内SSで灯油を購入意向を有する層とみなす。

### (2) 経営条件の想定

- ・地上タンク型SS（タンク1基）設置費3000万円、維持管理費150万円/年（※3）
- ・粗利（小売価格－仕入価格）：ガソリン22.6円/L、軽油22.6円/L、灯油21.8円/L（資源エネルギー庁「石油製品価格調査」の令和4年11月の給油所小売価格－卸価格により算出）
- ・スタッフ：2名、営業時間：12時間/日、営業日数：22日/月、賃金：853円/時間（愛媛県最低賃金）、法定福利費：人件費の15%
- ※3：地上タンク型SSの設置にはSS過疎地計画への位置づけや消防本部の承認が前提であり、地上タンク型SSの設置が可能であることを示すものではない

### <販売量推計>

	地区	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
		ガソリン	大味川 79	59	43	30
	杉野 68	51	38	28	20	
	仕七川 134	100	72	51	36	
軽油	大味川 3	3	2	2	2	
	杉野 12	12	12	11	10	
	仕七川 9	9	8	8	7	
灯油	大味川 78	56	42	32	24	
	杉野 74	52	39	29	22	
	仕七川 142	100	74	55	41	

地区	アンケート
大味川	57%
杉野	66%
仕七川	36%

地区	アンケート
大味川	63%
杉野	78%
仕七川	74%

	地区	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
		ガソリン	大味川 45	34	24	17
	杉野 45	34	25	18	13	
	仕七川 48	36	26	18	13	
軽油	大味川 1	1	1	1	1	
	杉野 8	8	8	7	7	
	仕七川 3	3	3	3	3	
灯油	大味川 28	20	15	11	8	
	杉野 38	27	20	15	11	
	仕七川 37	26	19	15	11	

油種		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
ガソリン	計	138	103	75	53	39
軽油	計	12	12	12	12	11
灯油	計	103	73	54	41	30

### <簡易事業シミュレーション>

		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	
粗利	ガソリン	粗利 (円/L)	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6
		数量 (KL)	117	110	103	98	92	86	81	75	71	66	62	58	53	50	48	45	42	39
		計 (千円)	2,644	2,490	2,335	2,207	2,079	1,951	1,824	1,696	1,598	1,500	1,402	1,304	1,206	1,141	1,075	1,010	945	879
	軽油	粗利 (円/L)	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6
		数量 (KL)	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11
		計 (千円)	279	279	280	279	278	277	276	275	272	270	267	265	262	258	254	250	246	242
灯油	単価 (円/L)	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	
	数量 (KL)	85	79	73	69	65	62	58	54	51	49	46	43	41	39	37	35	32	30	
	計 (千円)	1,851	1,722	1,592	1,510	1,428	1,345	1,263	1,181	1,122	1,064	1,006	948	890	844	798	752	706	661	
合計 (千円)		4,774	4,491	4,208	3,996	3,785	3,574	3,362	3,151	2,992	2,834	2,675	2,516	2,358	2,243	2,127	2,012	1,897	1,782	
売上総利益 (千円)		4,774	4,491	4,208	3,996	3,785	3,574	3,362	3,151	2,992	2,834	2,675	2,516	2,358	2,243	2,127	2,012	1,897	1,782	
販売費及び一般管理費	人件費	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	
	法定福利費	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	
	その他経費	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	
	減価償却費	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	6,365	6,365	6,365	6,365	6,365	6,365	6,365	6,365	6,365	
営業利益 (収支)		-5,341	-5,624	-5,908	-6,119	-6,330	-6,542	-6,753	-6,964	-3,373	-3,532	-3,690	-3,849	-4,008	-4,123	-4,238	-4,353	-4,468	-4,583	

### (検証結果)

- ・最大限の販売量を想定した場合でも、人件費のみで粗利益を上回っており、採算が確保できない。
- ・実際には、販売量（仕入量）が少ないため、仕入価格は上記よりも高くなる（粗利額がさらに低くなる）可能性が高い。販売価格を高くして利益率を高くした場合も、それが販売量の減少につながり、結果的に採算性の確保につながらない可能性が高い。

### (SS再開に向けた課題等)

- ・持続可能な運営のためには、施設整備費のほか、人件費が大きな割合を占める。そのため、地域住民の積極的な利用のほか、地域住民のSS運営への主体的な参加・協力が不可欠である。また、販売量が少ないため、燃料の仕入方法についても、誰が、どこから、どのような方法で調達可能か、安全性とコストの両面から十分な検討が必要である。

# 参考：SSが閉鎖した地区におけるSS再開可能性の検討 ケース2

## ケース2：柳谷エリアの住民の利用を想定したSSを、柳谷エリア内に設置・再開

### (1) 販売量の想定（面河エリア、美川エリアのうち仕七川地区の住民のうち、SS再開意向を有する全ての住民が利用すると想定＝想定される最大の販売量）

- ・【ガソリン】各対象地区の将来燃料需要量に、町民アンケートで得られた地区内SS利用率（※1）を乗じたものを販売量として想定
- ・【軽油】個人需要のみを対象とし、町民アンケートで得られた地区ごとの農機等の軽油給油量に、町民アンケートで得られた地区内SS利用率（※1）を乗じたものを販売量として想定
- ・【灯油】各対象地区の将来燃料需要量に、町民アンケートで得られた地区内SS利用率（※1）及び店舗購入率（※2）を乗じたものを販売量として想定

※1：町民アンケートで「各地区（旧町村）に1箇所以上あればよい（面河と柳谷は1箇所もないので再開してほしい）」と回答した割合 →地区内SS利用意向を有する層とみなす  
 ※2：店舗購入率：町民アンケートで、灯油の購入方法について「1.自分や家族が直接店舗に行き、ポリタンクで購入する」と回答した割合 →地区内SSで灯油を購入意向を有する層とみなす

### (2) 経営条件の想定

- ・地上タンク型SS（タンク1基）設置費3000万円、維持管理費150万円/年（※3）
- ・粗利（小売価格－仕入価格）：ガソリン22.6円/L、軽油22.6円/L、灯油21.8円/L（資源エネルギー庁「石油製品価格調査」の令和4年11月の給油所小売価格－卸価格により算出）
- ・スタッフ：2名、営業時間：12時間/日、営業日数：22日/月、賃金：853円/時間（愛媛県最低賃金）、法定福利費：人件費の15%
- ※3：地上タンク型SSの設置にはSS過疎地計画への位置づけや消防本部の承認が前提であり、地上タンク型SSの設置が可能であることを示すものではない

### <販売量推計>

燃料種別	地区	年				
		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
ガソリン	柳井川	88	64	43	30	20
	西谷	36	22	16	11	7
	中津	64	51	37	27	19
軽油	柳井川	19	19	19	18	17
	西谷	8	9	8	8	7
	中津	8	8	8	8	7
灯油	柳井川	89	63	46	33	24
	西谷	45	29	19	13	9
	中津	66	49	38	29	22

地区	SS利用率		地区	灯油店舗購入率	
	アンケート	推定		アンケート	推定
柳井川	68%	86%	柳井川	86%	86%
西谷	76%	65%	西谷	65%	65%
中津	74%	78%	中津	78%	78%

燃料種別	地区	年				
		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
ガソリン	柳井川	60	44	29	20	14
	西谷	27	17	12	8	5
	中津	48	38	27	20	14
軽油	柳井川	11	11	11	10	9
	西谷	6	6	5	5	5
	中津	3	3	3	3	3
灯油	柳井川	53	37	27	19	14
	西谷	22	14	10	7	4
	中津	38	28	22	16	12

油種	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
ガソリン 計	135	98	69	48	33
軽油 計	19	19	19	18	17
灯油 計	113	80	58	42	31

### <簡易事業シミュレーション>

			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040
粗利	ガソリン	粗利 (円/L)	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6
		数量 (KL)	113	106	98	92	87	81	75	69	65	61	57	53	48	45	42	39	36	33
		計 (千円)	2,555	2,388	2,221	2,088	1,955	1,822	1,689	1,556	1,464	1,372	1,280	1,187	1,095	1,026	957	887	818	749
	軽油	粗利 (円/L)	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6
		数量 (KL)	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	18	18	18	18	17	17
		計 (千円)	437	439	440	438	436	435	433	432	428	424	419	415	411	405	399	393	387	380
灯油	単価 (円/L)	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	21.8	
	数量 (KL)	93	86	80	75	71	67	63	58	55	52	49	46	42	40	38	35	33	31	
	計 (千円)	2,024	1,881	1,738	1,644	1,551	1,458	1,364	1,271	1,202	1,133	1,064	995	926	874	823	771	719	668	
合計 (千円)			5,017	4,707	4,398	4,171	3,943	3,715	3,487	3,259	3,094	2,928	2,763	2,598	2,432	2,305	2,178	2,051	1,924	1,797
売上総利益 (千円)			5,017	4,707	4,398	4,171	3,943	3,715	3,487	3,259	3,094	2,928	2,763	2,598	2,432	2,305	2,178	2,051	1,924	1,797
販売費及び一般管理費	人件費	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	5,405	
	法定福利費	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	811	
	その他経費	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	
	減価償却費	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計			10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115	10,115
営業利益 (収支)			-5,099	-5,408	-5,717	-5,945	-6,173	-6,401	-6,628	-6,856	-7,084	-7,312	-7,540	-7,768	-8,000	-8,232	-8,464	-8,696	-8,928	-9,160

### (検証結果)

- ・最大限の販売量を想定した場合でも、人件費のみで粗利益を上回っており、採算が確保できない。
- ・実際には、販売量（仕入量）が少ないため、仕入価格は上記よりも高くなる（粗利額がさらに低くなる）可能性が高い。販売価格を高くして利益率を高くした場合も、それが販売量の減少につながり、結果的に採算性の確保につながらない可能性が高い。

### (SS再開に向けた課題等)

- ・持続可能な運営のためには、施設整備費のほか、人件費が大きな割合を占める。そのため、地域住民の積極的な利用のほか、地域住民のSS運営への主体的な参加・協力が必要不可欠である。また、販売量が少ないため、燃料の仕入方法についても、誰が、どこから、どのような方法で調達可能か、安全性とコストの両面から十分な検討が必要である。



## (2) 久万高原町における燃料供給体制維持に向けた取組方策

### ① 町民の町内SS利用促進と情報提供

- ▶ 町内SS利用を促すチラシ・広報等の配布によって町内SS利用（町内利用率の向上）を促すほか、町民限定のクーポンなど、町内SSを利用するきっかけとなるキャンペーン等の実施を検討する。
- ▶ なお、町民アンケートからは、価格、営業時間、定休日等に関する意見や要望が多数見られているが、これらの背景や要因等についても丁寧に情報を提供し、町内SSに対する正しい理解促進も併せて進めていく。
- ▶ また、町民からのニーズが多い営業時間延長、土日営業等について、効果を検証するための実証実験の実施等も検討する。

#### 町内のSSに関する情報提供のイメージ

Q：なぜ、久万高原町のガソリン価格は松山市内と比べて高いの？

A：ガソリン価格の違いは、店舗の系列（ブランド）、給油形態（フルセルフ）、販売量（仕入量）、店舗の場所など、様々な要因が影響します。本町の場合、特にガソリンの仕入先（タンクローリーの出発地）からの距離が遠く輸送費がかかることや、販売量が都市部と比べて少ないことで、仕入価格が松山市内と比べて高いことが主な理由と言えます。

Q：セルフ式ガソリンスタンドにすれば安くなるのでは？

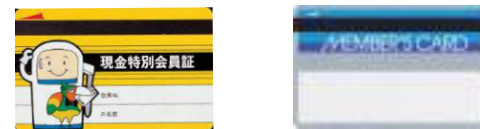
A：セルフ式ガソリンスタンドは、安全装置などの機器・設備等に多くの費用が必要であることや、セルフ式であっても従業員の常時配置が必要であり、ある程度の販売量がないとセルフ式のメリットは得られません。本町の燃料需要を考慮すると、セルフ式ガソリンスタンドの設置は難しいといえます。

☞ 実は町内で給油したほうが安い？

ガソリンの給油は、どうしても価格の安さに目が行きがちですが、実は近所のガソリンスタンドで給油したほうが実質的に安くなる可能性もあります。

例えば、町外の価格が安いガソリンスタンドで給油するために、燃費15km/Lの自動車でも往復45km走行すると、3Lのガソリンを消費することとなります。これは、ガソリン価格が160円/Lとすると480円分になりますので、町内のガソリン価格が10円/L高くても、48Lまでであれば町内で入れたほうが安いということになります。

(参考) 町民価格での提供にあたり会員カードを発行（現金会員、掛け会員）



(参考) 奈良県川上村のケース 会員募集チラシ



(参考) 奈良県川上村における広報紙での案内文

**「村民特典デー」を実施します！**

6月から毎週金曜日は、「村民特典デー」を開催します。現金通常より引きのところで、毎週金曜日はさらに1円引き！（配達を除く）どうぞご利用ください。  
土曜日・祝日も営業しています。日曜日のみお休みです。

**【問い合わせ先】**  
かわかみSS 直 52-0715  
店 長：いわた  
スタッフ：かめい・うえひら

## (2) 久万高原町における燃料供給体制維持に向けた取組方策

### ② 灯油の供給体制の拡充

- ▶ 灯油については、将来の供給不安が見られる一方で、配達利用率は2割程度であることから、SS事業者、関連事業者及び行政との連携による、配達サービスの効率化や拡充を図り、利便性の向上と供給不安の是正を図る。
- ▶ 具体的には、灯油配送の共同化の検討や、灯油ホームタンク設置やIoTを活用した配達効率化等を検討する。

#### <取組メニュー例>

##### ○買物弱者対策や高齢者見守りを兼ねた灯油の巡回配送

- ・ 各家庭の灯油用ホームタンクに、燃料販売店が巡回配送を行い、配送に係る販売店のコストを効率化
- ・ 町の買物弱者対策や高齢者見守りを兼ねることで、住民福祉や利便性向上にも寄与（福祉政策や商工政策との連携）

##### ○移動販売や福祉運送との連携による灯油の共同配送

- ・ 町内の移動販売や福祉運送等とあわせて、灯油ポリタンクを同時に配達し、コストを効率化
- ・ 例えば、日用品販売等を含む「御用聞き」事業との連携や、デイサービス送迎との連携により、小口需要に対応することで利便性向上に寄与

##### ○事業者連携による灯油配達の合理化

- ・ 町内のSS事業者が参画して、各社の配送拠点、受発注システム、配達車両、スタッフ等を集約・一括化して配送事業を合理化
- ・ 個別に行っている灯油配送を一元化することで配送コストを効率化するとともに、注文時の利便性向上により配達利用増も期待

##### ○スマートメーター（残量センサー付きキャップ）による効率的な灯油配達

- ・ 各家庭のホームタンクにスマートメータを設置し、残量を可視化することで、灯油配送を効率化

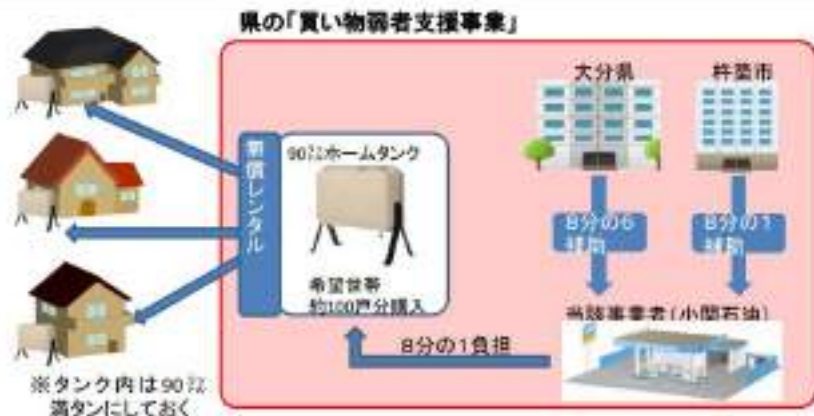
##### ○簡易計量機によるミニ供給拠点の整備

- ・ 多様な配達手段の確保等による供給体制の拡充のほか、住民の利用利便性や地域における災害備蓄の観点から、旧町村や地区等の単位で、簡易計量機等によるミニ供給拠点の整備も考えられる。
- ・ なお、整備・運営にあたっては、需要量が減少する中で適切に維持管理が可能か、整備費、運営維持費等のコストや、有資格者の配置も含めた管理運営体制等について、十分な検討が必要である。

# 参考：巡回配送、共同配送の事例

## (大分県杵築市での配置販売方式巡回配送の事例)

- 過疎地域で灯油購入に困る住民が多いことから、大分県は「買い物弱者支援事業」への組み入れを決定。関係者(大分石油(特約店)、県担当者、市担当者、青年会)による協議を開始。
- 注文ごとの配達ではSS側の負担が大きいことや、家庭によって使用量が異なるため、効率よく回るコースを決めにくいといった課題があったため、ホームタンク配置方式とし、販売店(小関石油)が巡回配送する方針を決定。
- 青年会が全世帯にアンケートし及び希望者募集した結果、約100世帯から申し込みがあり、2014年12月に事業を開始した。



### 灯油「配置販売」方式の仕組み



出所) 内閣府「小さな拠点」の形成に関する地方創生担当課長等説明会資料より

## (長野県天龍村での共同配送の事例)

- ・実証期間中は12月、2月、3月の合計3回、ご用聞き事業を実施。
- ・灯油注文のうち、注水量に応じて配送を分担
  - 180リットル未満：商工会が日用品・食料品と一緒に配送。
  - 180リットル以上：平岡SSでご用聞き事業以外の配送注文と合わせて配送。
- ・商工会での配送は、灯油の入ったポリタンクを専用のストッカーに入れることで安全性や匂い移りなどの問題を解消し、日用品・食料品と一緒に配送。
- ・商工会で大口需要の注文とりまとめの一部を担当したことで、配送計画が立てやすくなった。
- ・SS側としては、今後も冬季など灯油の需要が高い時期に商工会との配送分担ができればスタッフの業務効率化につながるとの評価。



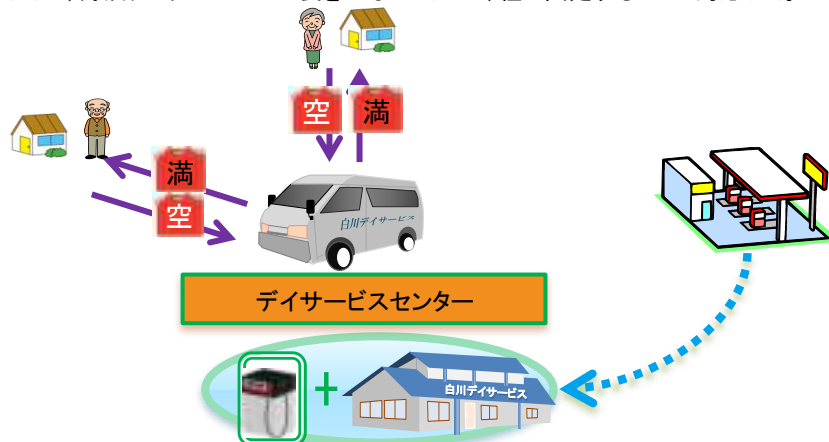
商工会での配送用ストッカーへの灯油の積み込み

平成24年度資源エネルギー庁燃料供給不安定地域対策事業

## (岐阜県白川村でのデイサービス送迎車による配送の事例)

### <デイサービス送迎車等による燃料配送(支援)>

- ・デイサービス送迎車は毎回ほぼ定員状態での運行であることから、安全性と効率性を両立させる方法として、利用者を送った帰り(夕方)に空ポリタンクを施設に持ち帰り、利用者を迎えに行くとき(朝)に給油したポリタンクを届けることとした。
- ・ポリタンクを載せる際は、車内での「揺れ等による灯油の漏れ」や「灯油の匂い」が懸念されたため、灯油タンクにビニール袋をかぶせた上で、紐で固定することで対応した。



平成23年度資源エネルギー庁燃料供給不安定地域対策事業

# 参考：複数事業者による灯油配送合理化の事例

(2) 企業体としての競争力強化
Case #56 : 株式会社灯油宅配ニイガタ 新潟配送センター

複数事業者が共同出資会社を設立。灯油配送を合理化し、コストを大幅に削減。小口宅配事業を維持することで、地域に貢献。

**背景・課題**

- これまでは、石油販売業者が個々に油槽所を保有し配達業務を行ってきたが、配達量は減少。
- 従来の灯油配達時期と比べ、夏場は配達数量が減少するため、より合理的な油槽所運営が不可欠。

**取組内容及び効果**

**【状況が変わるきっかけ】**

- 人員の確保や夏冬の配達数量の格差等により配送センターの機材が重荷に。
- 地域社会への貢献、従業員の仕事確保の観点から、配送事業の合理化を模索。

**【企業体としての競争力強化の秘訣①】**

＜同業態社との共同出資会社設立により、コスト削減と効率化を図る＞

- 共同出資会社「(株)灯油宅配ニイガタ」を設立。各社の配送拠点を1ヵ所に集約し、配送を一括委託することにより、人員・車両・施設のコストを大幅に削減。
- 賛同する会社が増える事で、更なるコストダウンを実現。

**【企業体としての競争力強化の秘訣②】**

＜元売に頼らず、受発注システムも独自に構築＞

- 卸会社は元売と特約契約を結ばず、燃料店どこからでも調達。
- 出資会社から各社への配達依頼を確実にするため、独自の受発注システム構築。
- 出資会社の集約数量がまとまることで、仕入単価削減や収益構造が改善。

**【企業体としての競争力強化の秘訣の定量的・質的効果】**

- 油槽所を1ヵ所に集約することで固定費が削減。具体的には、油槽所統合効果約1,170万円、人件費約753万円、車両費約142万円の削減。
- 参加事業者当初5社から9社となり、新潟センターの他、長岡センターも開設。販売数量は初年度の5,778kℓから10,404kℓと大幅に増加。



灯油宅配ニイガタの共同配送センター



元売マークのない「灯油宅配ニイガタ」のローリー

**今後の展望**

- 灯油から燃料を転換する家庭も増えており、配達数量の確保が課題。今後も参加者を広く募り業務拡大を目指す。
- 業務開始の配達人員の確保が課題。現在は、配達員の補充を順次に実施。

会社名	社名	(株)灯油宅配ニイガタ
共同出資	東信石油	—
	ガソリンの月給ごとの供給	—
	伊藤 信託サービス	—
	ガソリン販売	—
	新潟県の産業振興機構	—

項目	新潟配送センター
所在地	新潟県新潟市東区長岡1-2-2
立地特性	駅前/高層ビル
営業時間	8:30～17:30
従業員数	10名 (社員：5名、アルバイト：5名)
運営形態	配送センター
設立時期	1,202年
燃料取扱数量	—

出所) 経済産業省資源エネルギー庁「SS経営に関する優秀事例100選」(平成28年5月)

## IoTを活用した農山漁村の灯油難民防止

大賞/総務大臣賞

(北海道石狩振興局×新篠津村×JA新しのつ×ゼロスベック(株)×京セラコミュニケーションシステム(株)×さくらインターネット(株))

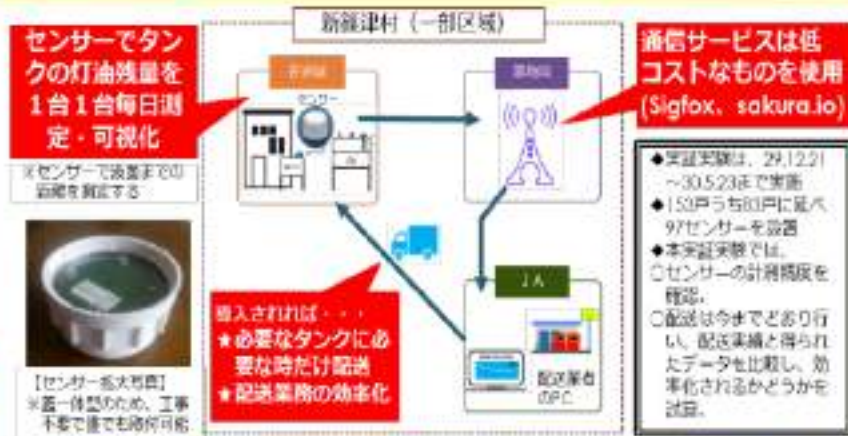
経験や勘に頼る灯油配送 ⇒ IoTで灯油残量を可視化した効率的配送へ

灯油の現状

- ⇒ 人口減少・過疎化の進展で、様々な生活関連サービスの低下や労働力不足が生じてくる。
  - ✓ 北海道では全国平均を上回るスピードで進展！
  - ✓ 農山漁村でより顕著に影響が！
- ⇒ 「灯油」でも配送業者の採算性悪化・人手不足が。
  - ✓ 「灯油」は寒冷地で特に重要なライフライン！
- ⇒ 将来、農山漁村に「灯油難民」とも言うべきエネルギー弱者が生まれる懸念。
  - ✓ 地方ではが「リソース」の減少が既に起こっている！

★ 低コストなスマートセンサー×低コスト通信サービス(LPWA等)による効率的な灯油配送システムの検証

★ 行政×灯油配送業者×IoT関連企業でタイアップ事業協定を締結し、農山漁村で地域実証実験を実施



行政×灯油配送業者×IoT関連企業によるタイアップ事業協定

石狩振興局	JA新しのつ	新篠津村役場	ゼロスベック(株)	京セラコミュニケーションシステム(株)	さくらインターネット(株)
企画・企画	配送データ提供 各家庭との調整	地域実証実験力 各種資料提供	センサー提供 全体システム管理	Sigfox(LPWA)運用 仕組み、基地局設置	sakura.io(LTE) 提供管理

## 官民協働×IoTによる、人口減少・過疎化に伴う地域課題の解決モデルの構築へ

12/21~5/23の154日間、僅か153戸うち83戸に延べ97センサーを設置するだけで...

- システム導入費用 97センサー×(154日/365日) = 122,788円/154日間
- 配送スタッフ人件費節減 (実配送日数96日→61日→35日減) ×13,000円/日 = 455,000円/154日間

154日間で  
332,222円  
プラス効果

★ 導入戸数を増やせば増やすほど、②は増える(プラス効果は大きくなる)

実験終了後、ゼロスベック(株)がプレサービスを開始し、H30.12月末現在、道内5都市に数千台を供給

道内では貴重なIoT実装事例に！

※①は、実際には導入台数で大きく変動する。数千円程度/年・台。

※②は、実際には配送スタッフ人件費以外にも、車両維持費やガソリン代などの削減効果もある



## 参考：簡易計量機（ポータブル計量機）の設置

### 【簡易計量機SS導入のメリット】

- ・ 簡易計量機（ポータブル計量機）は、移動・運搬が可能なタンク一体型の計量機であり、配管工事不要で設置することができる。
- ・ 必要な保安距離等が確保された休廃止SSなどにおいて簡易に設置できる。
- ・ 100万円台で設置することができ、安価に設置することができる。

### 【検討に当たっての留意点】

- ・ 容量は最大約600L（18Lポリタンク約30個分）であるため、在庫補充頻度が多くなることによるコストの考慮
- ・ 残量100L未満にならないと荷下ろしができないため、ローリーの荷下ろしの最小単位を考慮した在庫管理が必要（特にガソリンの場合、油槽所からのローリーの荷下ろし条件への対応が必要）
- ・ コスト、仕入、危険物取扱資格者確保も含めた管理運営体制の検討・構築が必要

簡易計量機の例



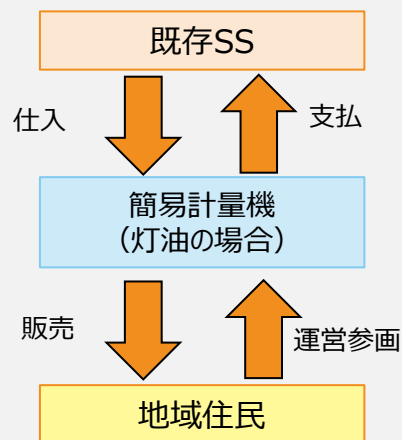
出典：経済産業省「平成28年度SS過疎地実態調査報告書」

簡易計量機の設置例



出典：経済産業省資源エネルギー庁編「SS経営に関する優秀事例100選」（平成28年5月）

### 灯油の簡易計量機設置の運営イメージ



仮に年間販売量80KL、リッターあたりマージン15円とした場合、営業利益120万円  
<コスト>

- ・施設整備費（必要に応じて外構等も）
- ・既存SSからの輸送費
- ・人件費（有資格者）
- ・施設維持費

※仕入費は、既存SSの販売価格に上乗せされるため、周辺の店舗価格より高くせざるを得ない可能性が高い

※1回あたりの仕入量0.5KLとすると、年販80KLの場合160回の仕入が必要

## (2) 久万高原町における燃料供給体制維持に向けた取組方策

### ③ 既存SS事業者への経営効率化や油外サービス等の新事業展開への支援

- ▶ 燃料需要が減少する中でも、既存SSの燃料供給機能が維持されるよう、経営効率化や燃料販売以外の事業展開への支援を行う。
- ▶ 具体的には、日用品や観光土産品などの物販機能、コインランドリーやカフェなど、燃料販売以外のサービス機能付加による誘客促進や、地域脱炭素化に関連するエネルギー関連事業への新規参入や事業転換への支援（人材育成、設備投資等の支援等）も検討する。

#### <取組例>

#### ○既存の立地やスタッフのスキル等を活かした、事業複合化や新規事業展開の支援

- ・ ガソリンスタンドの立地やスタッフのスキル等を活かした、新たなサービスや事業展開を支援し、油外収益の拡大や誘客を図る。
- ・ 新規事業展開としては、例えばコインランドリー、飲食（キッチンカー等も含む）、日用品販売、フィットネスジム、EV車関連サービス等が考えられる。
- ・ 行政においては、これら事業展開に向けた補助金情報等の提供や、観光、飲食、福祉等の関連事業者とのマッチング支援等を行う。

#### ○脱炭素社会を見据えた、新たなエネルギー関連事業への参入支援

- ・ 今後の地域脱炭素化の進展と併せて、再エネ関連事業（新電力事業、再エネ燃料供給等）にSS事業者の参入・参画を促し、雇用の維持と燃料供給機能の維持を図る。

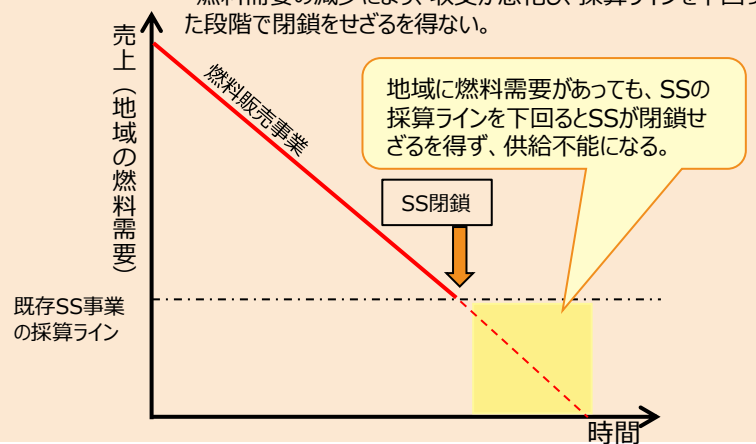
表 地域と連携するメニューと概要

分類	メニュー	概要・目的
地域の 需の喚起への 対応	現守り	主に町地誌に対して行うことを想定しますが、人手に余裕があれば店舗として行うことも考えられます。 【考え方】
	業務・店舗	・ 導入としては、町地誌や市町村等の業務委託が考えられますが、業務内容や継続性が重要となります。
	移動販売	・ ローリーによる町地誌では、スペースの関係上、配送可能なものは限られます（配送車による配送も検討されます）。
	宅配（日用品・宅配業務）	・ ロリーによる町地誌配送であれば、配送時のスペースが確保できますが、エネルギーについては検討が必要です。
	交通費補助	・ 業務効率を向上し、負担が軽減し新たな業務に定着し、参入を促すことが考えられます。
新しい 社会への 対応	IT関連事業	町地誌のオンライン化・デジタル化が進む中、IT関連の提供・対応が鍵となり、事業者等のサポートを要するもの。併せて町地誌による燃料供給の最適化が期待されます。
	電動車のメンテナンス拠点	町地誌の電動化に伴い、部品・整備方法の確立に対応できるようなメンテナンス機能を提供することも、地域におけるEVの普及に貢献するメンテナンスの拠点を設けることが期待されます。
	新たな地域拠点	町の発展と連携し、SSを宅配ボックス等配送拠点やサロン拠点として活用するもの。
	再エネ活用	地域の太陽光発電を活用し、地域連携EV充電等、非営利電源の供給に取り組むもの。

出所：SS過疎地対策ハンドブック

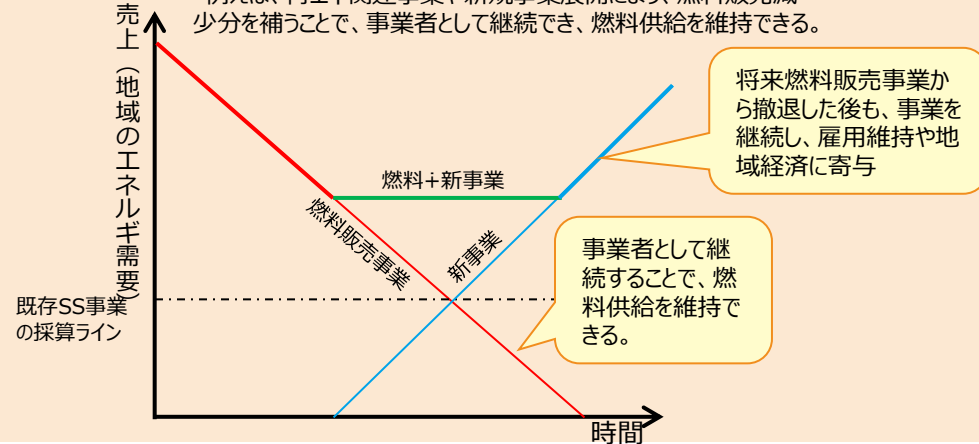
#### <燃料販売を専門とする場合>

- ・ 燃料需要の減少により、収支が悪化し、採算ラインを下回った段階で閉鎖をせざるを得ない。



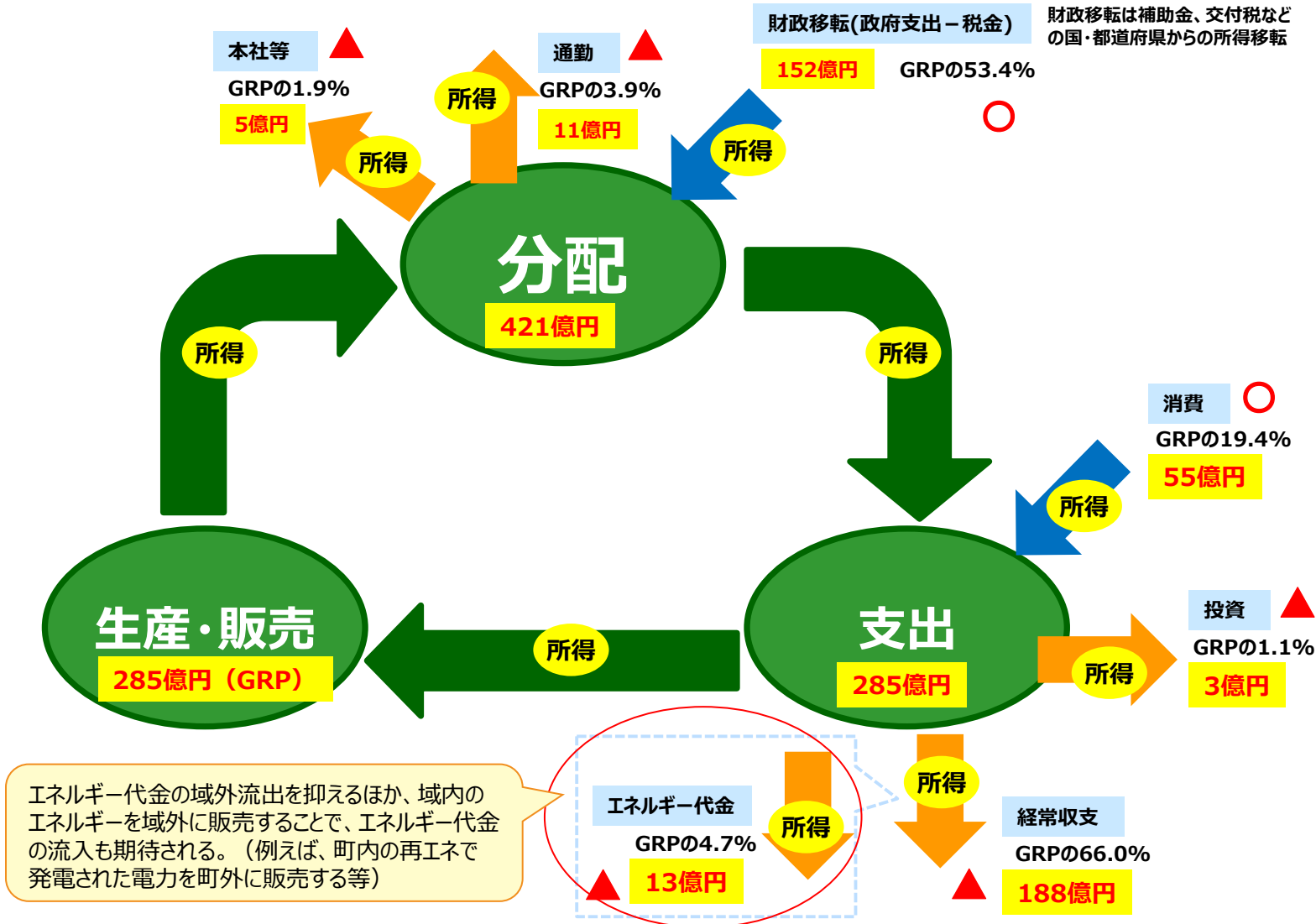
#### <新規事業展開等がなされた場合>

- ・ 例えば、再エネ関連事業や新規事業展開により、燃料販売減少分を補うことで、事業者として継続でき、燃料供給を維持できる。



# 参考：地域共生型のエネルギー事業による地域経済循環構造構築のイメージ

## ◆ 久万高原町の地域経済循環構造（所得循環構造）（2018年）



◆ 現在、エネルギー代金は域外に流出（域外で生産されたエネルギーを購入）しているが、町内のエネルギー調達・販売を担っている町内SS事業者が、地域の再生エネルギーなど、**地域内の「創エネ」**に関与することで、**エネルギー代金の域内還流が可能**となり、地域内の所得循環構造がより好循環化する（域内所得の向上）

# 参考：ガソリンスタンドの事業再構築（事業計画）の例

都道府県	市町村	事業者名	事業計画名	事業計画の概要
新潟県	妙高市	株式会社コバネン	ガソリンスタンドの隣接地を活用した100円ショップとカフェ事業への新分野展開	コロナ禍により観光客の利用が激減していることから、本業であるガソリンスタンドの隣接地で、 <b>100円ショップとカフェ（テイクアウト含む）</b> を開業し多角化を進めることで、業態間の相互利用・新規顧客の開拓を図り、収益基盤を安定化させる。
新潟県	長岡市	株式会社丸山石油店	従来の来店型販売から軽油灯油配送販売の新分野でB to Bを新規開拓	コロナ禍の影響や自家用車のEV化によりガソリン需要が減少、一般消費者へのガソリンスタンド事業による来店型販売から脱却する為、安定した需要が見込まれる軽油灯油の貯蔵施設の油槽所を新設し、 <b>建設業や農業者をはじめとする実需者（B to B）販売へ事業再構築</b> を行う。
長野県	埴科郡坂城町	柳屋商事株式会社	コインランドリー設置事業	現在はガソリンスタンドと車両整備等の車関連総合サービス業を営む。コロナ感染拡大の影響による売上減少を踏まえ、外的要因に対する耐久性を向上させ、経営リスクの分散を図るべく <b>コインランドリー業に新規参入</b> するもの。 <b>既存施設の1部を改装しコインランドリーを設置</b> する。
岐阜県	郡上市	有限会社まるや石油	「郡上市高鷲町の魅力を伝えよう！移動式宿泊事業への参入」	観光地にてガソリンスタンド経営を行っていたが、コロナによる人流の低下により売上が激減。地域の特性とアウトドア需要をとらえ <b>移動式宿泊事業へ参入</b> 。底堅いアウトドア需要から売上増加効果を期待できる。
福島県	喜多方市	有限会社山庄商店	ガソリンスタンドとの相乗効果が見込まれる有人コインランドリー事業	ガソリンスタンドの活性化と相乗効果が見込まれる業界で初めて敷きフタの洗濯機洗いを可能とした <b>有人コインランドリーを事業化</b> する。2事業による誘客を図れ、強みである <b>既存の配送ルートとスタッフを活用</b> し、かつ繁忙・閑散期の課題を解決できることで、生産性の向上を図ることができる。
長崎県	諫早市	株式会社小長井石油店	過疎と高齢化に直面する町で地域のモビリティを支える車検整備事業への進出	コロナ禍で減少した売上の回復に向け、ガソリンスタンドとのシナジー効果が高い <b>自動車整備分野へ進出</b> 、燃料販売から車検整備まで地域の移動手段を支える企業への転換を図る。また雇用の確保や地域活性化の拠点づくり等、地方創生SDGsの観点から地域との共生を進めていく。
埼玉県	秩父郡小鹿野町	三橋合名会社	コインランドリー事業進出による事業基盤の再構築	燃料高騰化や低炭素化社会の進行に伴う既存事業の厳しい事業環境に備えるため、地域のインフラで生活道路沿いの立地の既存事業の特質を活かし、ガソリンスタンドに併設する <b>コインランドリー事業を開始</b> する。
長野県	下伊那郡阿智村	有限会社清内路石油	ガソリンスタンド×自動車整備事業による「地域の動力機械を支える何でも相談所」への事業展開	コロナの影響による観光客の減少や脱ガソリン車によって厳しい状況にあるガソリンスタンド事業から自動車整備業に新事業展開するとともに、地域の実情に合わせた出張サービスや相談サービスを強化することを通じて「 <b>地域の動力機械を支える何でも相談所</b> 」として事業を再構築する
島根県	仁多郡奥出雲町	株式会社まるきょう	クルマ頼り田舎人へ健康ライフを！経歴と立地を活かす24時間カジュアルフィットネス	ガソリンスタンドで培った接客に、代表のスポーツトレーナー経歴と好立地資産を活かし、クルマ頼りで運動不足の田舎人が待ち望んだ <b>フィットネスジム事業</b> を行い、24時間好きな時に、独りになれる時間と場所の提供で田舎生活の質向上に貢献する。
岩手県	宮古市	株式会社角登商店	ガソリンスタンドにおける非接触型決済コインランドリー導入による事業再構築	既存ガソリンスタンドの店舗内に、 <b>コインランドリーを導入</b> する。ENEOSランドリー専用の精算端末による多様な決済手段が利用出来る。特に当ガソリンスタンドにて強固な固定化策として利用拡大している非接触ツールE n e k e yを利用する事が可能で、ガソリンスタンドとの相乗効果を図るものとする。
岐阜県	羽島郡笠松町	株式会社堀井商店	地域の燃料総合商社から、生活モビリティを支えるNo.1会社へ	これまでのガソリンスタンドを中心とした事業から、今後の脱炭素・少子化の流れを踏まえ、新しい事業として、身近な車種の <b>中古車販売の事業</b> を立ちあげ、地域の生活モビリティを幅広く支えていく。
長崎県	島原市	アポロ興産株式会社	ガソリンスタンドの強みを活かした地域総合インフラとしての脱炭素事業展開	ガソリンスタンド（サービスステーション）事業を柱とする当社は、コロナ禍による需要の減少や脱炭素社会の到来といった時代の流れに対応し、 <b>EV車の販売・整備やバイオマスプラスチックの販売などの新分野への事業展開</b> を行う。DX技術を組み合わせて、地方におけるガソリンスタンドの新たなビジネスモデルを構築する。

出所) 経済産業省「事業再構築補助金事務局ホームページ」における過去の事業再構築補助金採択結果から、ガソリンスタンドの事業再構築に関するものの一部を抜粋

## (2) 久万高原町における燃料供給体制維持に向けた取組方策

### ④ 地上タンク型SSの導入によるローコスト化

- 既存SSのうち、地下タンクの更新期限が迫っているSSについては、事業者のニーズを踏まえ、地上タンク型SSの導入を支援する。
- 地下タンクの更新期限が迫っている直瀬SS（JA松山市）について、久万高原町消防本部の承認を前提として、地上タンク型SSの導入を図る。

#### <直瀬SS（JA松山市）の地上タンク型SSの導入>

- 直瀬SSは、地下タンクの更新期限が2025年に迫っているが、近隣SSとの距離や地域住民の継続を望む声が多くあることから、久万高原町消防本部の承認を前提として、地上タンク型SS（コンテナ型地上タンク給油所）を設置する。



写真 現状の直瀬SS

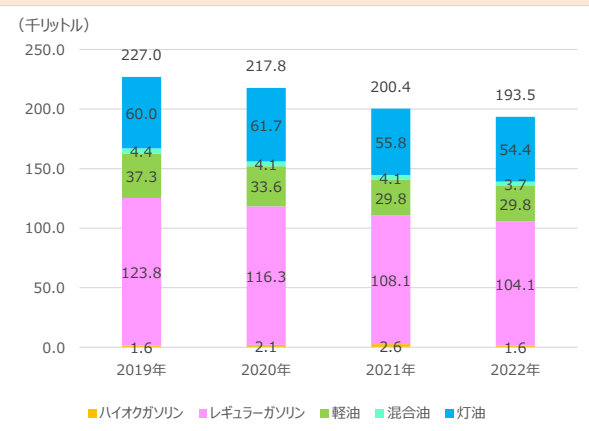
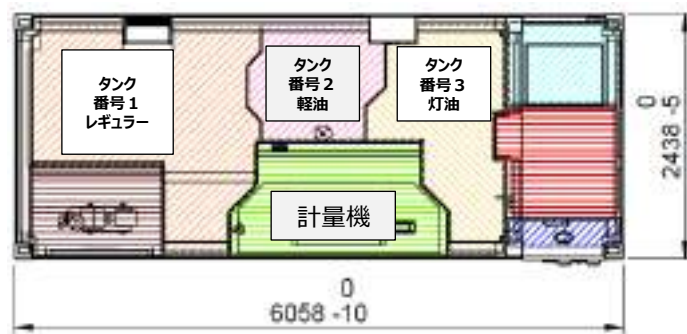


図 直瀬SSの燃料販売量実績

出所) 松山市農業協同組合

- 自動車燃料油と灯油の誤給油防止対策として、自動車燃料用と灯油用で計量機を2台設置し、給油車両の停止位置、給油場所を明確化する方法を検討

タンク番号	1	2	3
容量	9KL	3.5KL	5.3KL
油種	レギュラー	軽油	灯油

図 直瀬SSに設置する地上タンク型SSの計画案

出所) 松山市農業協同組合

※上記の内容は、現時点での計画案であり、今後、久万高原町消防本部の承認に向けた各種協議・調整により、変更・見直しとなる可能性がある。

## 地上タンク等を設置する給油取扱所に係る検討 (過疎地域の燃料供給インフラの維持に係る各方策)

### 背景等

#### 背景

- 地上にあるため設置・更新の負担が少ない
- 従来の簡易タンクより多量の燃料を貯蔵可能

#### 課題

- 地上設置に伴う車両衝突やいたずら等のリスク
- 火災・流出事故時における被害の拡大
- 自然災害の影響を受けやすい

#### 検討の視点

- 設置する場所の条件
- 施設内の安全対策
- 維持管理・点検 等

#### 検討方法

- 流出防止・対策、火災予防・延焼防止等の観点からリスク評価



地上タンクの例  
※ 令和元年度の資源エネルギー庁モデル事業(左図、長野県下伊那郡売木村)は、先行事例として参考にした

### 安全対策の技術的検討

- タンク地上化に伴う事故時や自然災害時のリスクについて、タンク本体や給油取扱所の構造・設備により低減するとともに、立地等(下記)で補完することを前提に認めることが適当
  - ・過疎地であり、資源エネルギー庁が進める「SS過疎地対策計画」により住民合意があること
  - ・ハザードマップで示された災害の危険箇所を避ける、又は想定される自然災害への対策がなされた場所への設置
  - ・建築基準法令で定める用途地域毎の設置基準に留意すること
- タンク本体や給油取扱所の構造・設備について、政令第12条第1項の屋内タンク貯蔵所の基準をベースに、必要な事項を追加することが適当(追加する事項の例)
  - ・放爆構造、埋設配管、流出防止対策、漏洩検知装置、自動車衝突防止装置
  - ・容量はSS過疎地対策計画で合意形成された最低限の量まで



<地上タンク設置型給油取扱所のイメージ>

- 個別の地域におけるタンク地上化のニーズについては、上記の対策を基に、政令第23条の特例適用により対応することが可能 (cf. 売木村の先行事例)
- なお、簡易タンクについては、地域の実情に応じて油種を柔軟に取り扱うこととして差し支えないと考えられるが、現行の容量を超えるものは上記の地上タンクによることが適当

#### 今後について

- 過疎地におけるタンク地上化のニーズの広がり、ソフト面(危険物保安監督者として適格な人材の確保等)を含めた対応の必要性等を引き続き注視し、必要に応じ法令等の手当てを検討

# 参考：地上タンク型給油所の例

## 1. 施設の概要

- 【運営団体名】つるぎむらガソリンスタンドを稼す会
- 【給油取扱所名】つるぎ600道の駅前PS（ポータブルステーション）
- 【タンクの概要】20フィートコンテナ（ハイオクガソリン、レギュラーガソリン、軽油（3油種））と10フィートコンテナ（灯油（1油種））を設置。

## 2. 地上タンクの寸法

20フィートコンテナの寸法（自動車燃料用）

コンテナ幅	6,058mm
コンテナ奥行き	2,438mm
コンテナ高さ	2,896mm

10フィートコンテナの寸法（灯油用）

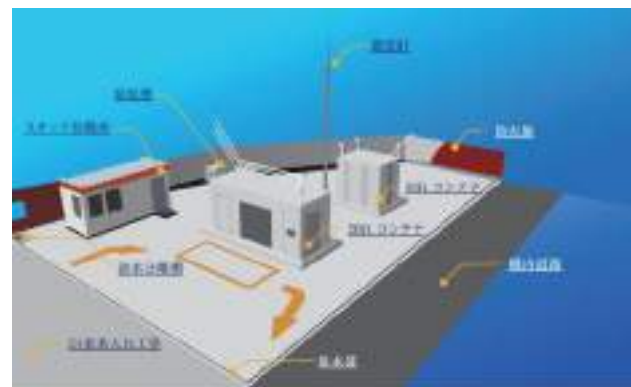
コンテナ幅	2,991mm
コンテナ奥行き	2,438mm
コンテナ高さ	2,896mm

## 3. 地上タンクの容量

油種	レギュラーガソリン	ハイオクガソリン	軽油	灯油
容量（L）	9,000	3,500	5,300	8,100




売木村の地上タンク型給油所の配置図



出典：総務省消防庁「過疎地域等における燃料供給インフラの維持に向けた安全対策のあり方に関する検討会」令和2年度第1回資料

出典：コモタ株式会社資料

## 参考：地上タンク型の特徴・コストイメージ（一般的な条件等によるもの）

形態	防災・災害耐性	運営	敷地利用 (設備配置)	SS設備コスト (タンク、配管、計量機等) ★土木・施設工事費は含まない	ランニング コスト	廃止 コスト	その他
地上タンク 設置型 	○コンテナ内にタンク・配管・計量機が全て内蔵されているため、揺れによる損害リスクは低い。 (震度6程度の耐震性有り)	○計量機をシャッター格納可能なため防犯性高い。	△地上にコンテナを複数設置するため、配置レイアウトの自由度が低い。 (洗車等のスペースが確保しにくい等油外収益が制限される可能性がある。)	○約5000万円 (20フィート×2基の場合)  ※SS設備コストのほか、各種調査費、土木工事費、施設・設備工事費、設計料、各種手続き費用等が必要となる。	※(2基の場合) 月間14万円～17万円程度	※コンテナ規格であるため、移設先がある場合は、他所への運搬・移設が可能	※設置にあたり、危険物の規制に関する政令第23条の規定による特例適用の承認が必要(全国で地上タンク設置型は1事例のみ、3基設置は事例がないなど、承認に必要な条件等が現時点で不確定)

## (2) 久万高原町における燃料供給体制維持に向けた取組方策

### ⑤ 燃料供給体制の維持に向けた体制づくりと管理

▶ 前述の取組の効果的な推進や、地域の実情に沿った取組の実施による燃料供給体制の維持を適切に展開していくため、継続的な実態把握や、町内SS事業者を含む関係者間の情報交換、必要な人材の確保・育成等を進める。

#### ○ 定期的・継続的な、町民の意見・ニーズ等の把握

- ・ 人口減少、高齢化、カーボンニュートラルに向けた取組進展に伴う燃料転換等により、燃料需要が大きく減少していく可能性がある中で、効果的かつ機動的な燃料供給体制の維持・確保を進めるために、定期的・継続的な町民の意見・ニーズや利用状況等を把握することも必要である。
- ・ 把握にあたっては、アンケート調査等のほか、例えば町民クーポン、町民カード等による利用実態把握等も考えられる。

#### ○ 町内SS事業者や関係者による情報交換の場の設置

- ・ 例えば、今回の対策委員会の枠組みを継続して、町内の燃料需要、燃料供給体制の状況等について調査・共有したり、各種対策の実施に向けた検討・協議等を実施する等、関係者間の情報共有、調整、検討の場を継続的に設置する。
- ・ また、面河エリア、柳谷エリアにおける、住民の運営への主体的な参加・協力によるSSの設置・再開の可能性等について、町、SS事業者、地域住民等による情報交換や検討を行っていく。

#### ○ 特定地域づくり事業共同体、地域おこし協力隊など、地域の実情に応じた人材の確保・育成、事業化支援

- ・ 燃料供給体制の維持・確保に向けた人材不足がより深刻化する中で、例えば特定地域づくり事業共同体、地域おこし協力隊などの制度等を活用した、町内SSの利用促進や配達支援等の人材確保について検討する。検討にあたっては、燃料供給のみならず、地域振興、福祉、生活支援等の施策との連携も考えられる。

#### ○ 地域脱炭素やエネルギー転換を契機とした地方創生の実現に向けた検討

- ・ 今後、カーボンニュートラルに向けて、ライフスタイルや産業構造の変化やエネルギー転換が進んでいく中で、地域の産業の見通しやそれに伴う燃料需要の見通し、SS事業者を含む事業転換の方向性等について検討し、新たな「稼ぐ力」の創出や地域経済循環の構築について具体的な検討を行うことも必要である。
- ・ 特に、太陽光、バイオマス等は、地域内で生産可能なエネルギーであり、これらを地域経済活性化に効果的に結びつけるための方策等について検討することが重要である。

#### ○ SS過疎地対策計画の改訂

- ・ 今後、町内SSの動向等を注視する中で、既存SSの存続が難しくなり、町民のSS利用利便性が著しく低下したり、町民の燃料供給不安が拡大する恐れがある場合や、SSの維持・効率化にあたり地上タンク型SSや巡回型SSの導入、住民の主体的な参加・協力によるSSの設置・再開等を図る場合には、SS過疎地対策計画の改訂を行い、燃料供給体制の維持・確保・再配置や、運営・管理の在り方等について見直しや新たな位置づけ等を行う。



# 参考：特定地域づくり事業協同組合制度の概要

## 特定地域づくり事業協同組合制度の概要

根拠法：地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律（令和2年6月4日施行）

### 人口急減地域の課題

- ・事業者単位で見ると年間を通じた仕事がない
  - ・安定的な雇用環境、一定の給与水準を確保できない
- ⇒人口流出の要因、UJターンの障害



### 特定地域づくり事業協同組合制度

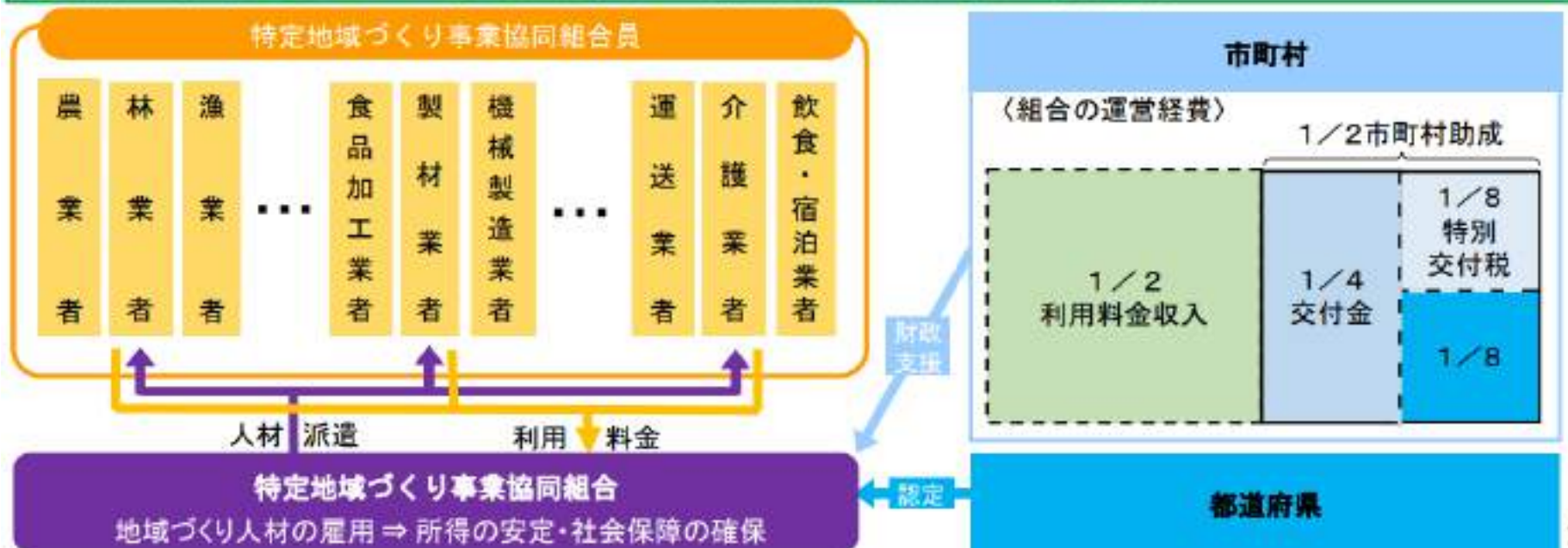
- ・地域の仕事を組み合わせて年間を通じた仕事を創出
  - ・組合で職員を雇用し事業者に派遣  
(安定的な雇用環境、一定の給与水準を確保)
- ⇒地域の担い手を確保

### 人口急減法の概要

対象：人口規模・人口密度・事業所数等に照らし、人材確保に特に支援が必要な地区として知事が判断  
※過疎地域に限られない

認定手続：事業協同組合の申請に基づき、都道府県知事が認定（10年更新制）

特例措置：労働者派遣法に基づく労働者派遣事業（無期雇用職員に限る）を届出で実施可能



### (3) 実現に向けたアクションプラン（スケジュール）

項目・アクション	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度) ～令和12年度 (2030年度)頃	令和13年度 (2031年度)以降 ～
①町民の利用促進・情報発信	情報発信、実証実験等 (情報発信については、継続的に実施)				
②灯油の供給体制の拡充	導入可能性の調査・検討 導入				
③既存SS事業者への経営効率化 や油外サービス等の新事業展開への 支援	情報共有、情報提供 ニーズに応じた支援				
④地上タンク型SSの導入によるロー コスト化	<p>&lt;直瀬SS&gt; ※一般的に想定される工程であり、今後の協議・調整等によって見直す可能性がある</p> <p>協議・調整      工事      設置・開業</p> <p>他のSSについては、事業者の導入意向等を踏まえて、適宜、必要な調査及び協議・調整を行い、SS過疎地対策計画に位置付け（改訂）のうえ、導入</p>				
⑤燃料供給体制の維持に向けた体 制づくりと管理					

## 4. 參考資料

---

# (1) 久万高原町SS過疎地対策計画策定委員会

## ○久万高原町SS過疎地対策計画策定委員会設置要綱

久万高原町サービスステーション過疎地対策計画策定委員会設置要綱  
(令和4年10月31日告示第76号)

(趣旨)

第1条 この告示は、本町のガソリンスタンド(サービスステーション)(以下「SS」という。)数が、人口減少や後継者不在等により減少し続けており、近隣にSSがない地域では、自家用車、農林業機械等への給油や、移動手段を持たない高齢者等への灯油配送等に支障を来していることから、今後の安定的な燃料供給体制の維持、方策等について、検証、検討を行うため、久万高原町SS過疎地対策計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置することに関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項を協議するものとする。

- (1) 地域の現状把握に関すること。
- (2) 町内の燃料供給体制と燃料需要の把握に関すること
- (3) 安定的な燃料供給体制の維持、方策等の検討に関すること
- (4) SS過疎地対策計画の策定に関すること
- (5) その他前条の目的達成に関すること

(組織)

第3条 委員会は、委員20人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、町長が委嘱する。

- (1) 行政関係者
- (2) 町議会議員
- (3) 商工業団体関係者
- (4) SS事業者
- (5) 消費者代表
- (6) 有識者
- (7) その他町長が必要と認める者

3 委員会に専門的な知識や経験を有するオブザーバーを置くことができるものとする。

(委員及びオブザーバーの任期)

第4条 委員及びオブザーバーの任期は、委嘱の日の属する年度の末日までとする。

2 委員が欠けた場合の補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に、委員長及び副委員長各1人を置く。

2 委員長、副委員長は、委員の互選によりこれを定める。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集し、議長となる。ただし、この告示の施行後、最初に開かれる会議は、町長が招集する。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会議は、原則として公開とする。

(報酬等)

第7条 委員及びオブザーバーの報酬等は、久万高原町特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例(平成16年久万高原町条例第39号)の定めるところによる。

(庶務)

第8条 会議の庶務は、総務課において行う。

(その他)

第9条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、町長が別に定める。

附 則

この告示は、公表の日から施行する。

# (1) 久万高原町SS過疎地対策計画策定委員会

## ○策定委員会開催の経過

### 第1回久万高原町SS過疎地対策計画策定委員会

日時：2022年10月31日（月）15:00～

場所：久万町民館2階 議場

次第：

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 あいさつ（町長）
- 4 出席者紹介
- 5 役員選出（委員長、副委員長）
- 6 議事
  - (1) SS過疎地対策計画策定の趣旨・経緯説明
  - (2) 久万高原町のG年譲渡検討の方向性・進め方
  - (3) 意見交換
- 7 その他
- 8 閉会

### 第2回久万高原町SS過疎地対策計画策定委員会

日時：2023年1月20日（金）15:00～

場所：久万町民館2階 議場

次第：

- 1 開会
- 2 あいさつ（町長、委員長）
- 3 議事
  - (1) 第1回議事の確認について
  - (2) 町民アンケート等の結果について
  - (3) 町内の燃料需要と今後の見通しについて
  - (4) SS過疎地対策の方向性について
  - (5) その他
- 4 意見交換
- 5 その他
- 6 閉会

※当初、計3回の開催を予定していたが、2022年12月23日（金）に予定していた第2回策定委員会を豪雪により中止としたため、計2回の開催となった。

## ○策定委員会

(敬称略)

項目	所属	役職名	氏名	備考
委員	久万高原町	副町長	佐藤 理昭	
	久万高原町議会	総文厚常任委員会委員長	大原 貴明	久万地区
		議員	高橋 誠	柳谷地区
		議員	光田 優	面河地区
		議員	高橋 未廣	美川地区
	久万高原町商工会 (高山建設、愛和美川石油)	会長 (代表)	高山 哲也	商工団体 (事業者)
	JA松山市営農センター資材部 JA松山市久万経済センター	部長 センター長	屋敷 猛 藤原 修	事業者
	町老人クラブ連合会	会長	丹波 松清	消費者(美川地区)
	町婦人会	会長	岡田 照美	消費者(美川地区)
	中津大字会	会長	佐賀 繁志	消費者(柳谷地区)
	面河地区地域運営協議会会長 (若山建設)	会長 (代表)	上野 盛勝	消費者(面河地区)
	山本石油株式会社	取締役	山本 知行	有識者
	愛媛県石油商業組合	事務局長	野津手 裕介	有識者
	愛媛大学社会共創学部	特任講師	笠松 浩樹	有識者
オブザーバー	経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部石油流通課	課長補佐 係長	牧野 寛 宮内 光弘	
	四国経済産業局 資源エネルギー環境部 資源・燃料課	課長	宮川 知巳	
	愛媛県経済労働部 経営支援課	課長	高尾 浩司	
	久万高原町消防本部本署	総務課長	山口 直樹	
事務局	久万高原町役場総務課	課長 班長	木下 勝也 大政 公昭	
	久万高原町役場まちづくり営業課	課長	高木 勉	
計画支援 委託事業者	株式会社総合研究所 事業開発部	主席研究員	鴨志田 武史	

## (2) 町民アンケート調査票

### 燃料（ガソリン・軽油・灯油）の利用や購入についてのアンケート

人口減少が進み、エネルギー消費の状況も変化の中で、町民の皆様が安心して暮らせる環境を維持していくためには、燃料利用の現状と見通しを把握し、利便性の向上や災害時の燃料備蓄などを高めた将来の燃料供給体制のあり方を考えておく必要があります。

ご入力のことから、今回、久万高原町では、経済産業省の補助金を活用し、将来を見据えたガソリンスタンドの運営や燃料供給体制のあり方を検討することとなりました。

このアンケートは、町民の皆様への燃料購入やガソリンスタンド利用状況等をお尋ねし、こうした検討の基礎資料とすることを目的として行うものです。

なお、記入いただいた内容は全て統計的に処理され、個人が特定されたりすることはありません。また、このアンケートの結果は、久万高原町の将来の燃料供給体制のあり方の検討にあたっての基礎資料として利用させていただきます。それ以外の目的には使用いたしません。

ご多忙中のごとくお字数をさががけたいと思いますが、何卒ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

【調査主体】 久万高原町 総務課 <お問合せ先> TEL: 0992-21-1311

#### 【ご回答いただくにあたって】

- ・このアンケートは1世帯に1枚配布しています。世帯主または世帯の代表の方がお答えください。
- ・記入いただいたこのアンケート用紙は、**11月30日(水)**までに、同封の返信用封筒（切手不要）によりご返送いただけますようお願い申し上げます。
- （返送先は、調査委託先である（株）信達総合研究所（東京・千代田区）宛となります）

まず、世帯やご家族のことについてお尋ねします。

問1 あなたのお住まいはどちらですか。お住まいの大字名に○をつけてください。

地区	大字（お住まいの地名に○をつけてください）
久万地区	1.東明神 2.西明神 3.入野 4.久万 5.上野尻 6.下野尻 7.番生 8.上畑野川 9.下畑野川 10.道瀬 11.二名 12.霧峰 13.又野川
国河地区	1.前畑 2.船の峰 3.笠方 4.茨草 5.大成 6.本畑 7.中畑 8.河の子 9.若山 10.相の木
美川地区	1.有枝 2.大川 3.上黒岩 4.中黒岩 5.日野浦 6.七島 7.東川 8.仕出 9.沢渡 10.黒原川
柳谷地区	1.柳井川 2.西谷 3.中津

問2 あなたのご家庭の人数を、合計と年代別の内訳、それぞれご記入ください。

※ご自身を含めた人数

年代別の内訳					
0～14歳	人	15～34歳	人	35～49歳	人
50～64歳	人	65～74歳	人	75～84歳	人
85歳以上	人	合計	人		人

1

次に、日ごろの灯油の利用や購入についてお尋ねします。

問3 あなたのご家庭には、「灯油」を使う機器として、どのような機器がありますか。次のなかから保有・使用している機器をすべて選び、○をつけてください。

- |                                       |                    |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1.暖房機器（ストーブ、ヒーター等）                    | 2.ボイラー・給湯機（風呂、台所等） |
| 3.農業用機器（灌漑、乾燥機等）                      | 4.その他（ ）           |
| 5.灯油を使う機器は持っていない（灯油は使わない） →問7にお答えください |                    |

問4 問3で、1～4のいずれかひとつ以上回答した方（灯油を使う機器をお持ちの方）にお尋ねします。あなたのご自宅や倉庫などには、灯油用のタンク（ホームタンクなど）はありますか。

- |  |
|--|
| 1.ある → タンクの容量（ ）リットル ※複数保有している場合はその合計をご記入ください。 |
| 2.ない   |

問5 問3で、1～4のいずれかひとつ以上回答した方（灯油を使う機器をお持ちの方）にお尋ねします。あなたのご家庭では、灯油は、主にどうやって購入していますか。次のなかから主な購入方法をひとつ選び、○をつけてください。

- |  |
|--|
| 1.自分や家族が直接店舗に行き、ポリタンクで購入する                 |
| 2.必要な時に電話等で注文し、ポリタンクで配達してもらう               |
| 3.必要な時に電話等で注文し、ローリーが来てポリタンクやホームタンクに給油してもらう |
| 4.定期的にローリーが来て、ポリタンクやホームタンクに給油してもらう         |
| 5.その他（ ）                                   |

問6 問3で、1～4のいずれかひとつ以上回答した方（灯油を使う機器をお持ちの方）にお尋ねします。あなたのご家庭では、灯油は、主にどこで、どのくらい購入していますか。

春・夏（4月～9月）、秋・冬（10月～3月）の時期ごとに、  
①主な灯油の購入場所（店舗） ②購入頻度・回数 ③1回あたりの購入量をそれぞれご記入ください。

時期	①主な購入場所	②購入頻度	③1回の購入量
春・夏 （4月～9月）	下のリストの番号 （ ）	4月～9月の6カ月間で （ ）回	1回あたり （ ）リットル
秋・冬 （10月～3月）	下のリストの番号 （ ）	10月～3月の6カ月間で （ ）回	1回あたり （ ）リットル

<①主な購入場所（店舗）のリスト>

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1. 久万の山本石油（ENEOS） | 2. 入野の今井石油（コスモ）      |
| 3. 久万の倉橋石油（ENEOS） | 4. 明神のJASS           |
| 5. 道瀬のJASS        | 6. 畑野川のJASS          |
| 7. みみどのJASS       | 8. 大川の豊和美川石油（シェル）    |
| 9. 霧峰の久保建設（久保SS）  | 10. 久万のホームセンター（コーナン） |
| 11. 町外のガソリンスタンド   | 12. 町外ホームセンター（ダイイチ等） |
- ※上記にない場合は、①の（ ）に場所や店名を直接記入してください。

※一般的な灯油ポリタンクの容量は18リットルです。例えば、灯油をポリタンクで5回購入している場合の購入量は、18リットル×5回＝90リットルとなります。

2

## (2) 町民アンケート調査票

次に、日ごろのガソリンや軽油の給油についてお尋ねします。

- 問7 あなたのご家庭では、自動車用のガソリン・軽油や農業員用の燃料等は、主にどこで、どのくらい給油していますか。  
ご利用の燃料と、①よく利用する給油所（ガソリンスタンド）  
②ひと月あたりの給油頻度・回数 ③1回あたりの給油量 をそれぞれご記入ください。  
〔ご家庭で複数台所有している場合は、利用頻度の高い2台についてご回答ください。〕

### 【自動車の給油】

※1台目、2台目とも、日ごろ「最もよく利用する給油所」及び「次によく利用する給油所」それぞれについて、ひと月あたりの給油回数や1回あたりの給油量をご記入ください。日ごろ利用する給油所が1台目の場合は、「最もよく利用する給油所」のみご記入ください。

※ひと月の給油回数が1回未満の場合は、ひと月あたりに割り戻した回数をご記入ください。

（例：2カ月に1回の場合は、「0.5回」ご記入）

※1回の給油量は、平均的な燃費の給油量で結構です。

車種	その車の燃料	①よく利用する給油所	②給油頻度	③1回の給油量
1台目の車	1. ハイオク	最もよく利用する給油所 下のリストの番号 ( )番	ひと月あたり ( )回/月	1回あたり ( )リットル
	2. レギュラー	次によく利用する給油所 下のリストの番号 ( )番	ひと月あたり ( )回/月	1回あたり ( )リットル
	3. 軽油	次によく利用する給油所 下のリストの番号 ( )番	ひと月あたり ( )回/月	1回あたり ( )リットル
2台目の車	1. ハイオク	最もよく利用する給油所 下のリストの番号 ( )番	ひと月あたり ( )回/月	1回あたり ( )リットル
	2. レギュラー	次によく利用する給油所 下のリストの番号 ( )番	ひと月あたり ( )回/月	1回あたり ( )リットル
	3. 軽油	次によく利用する給油所 下のリストの番号 ( )番	ひと月あたり ( )回/月	1回あたり ( )リットル

### 【自動車以外の機械などの給油】

※②は、年間の給油回数をご記入ください。（例：5月に2回、11月に1回の場合は「3回」ご記入）

※③の1回の給油量は、平均的な燃費の給油量で結構です。

燃料	①よく利用する給油所	②給油頻度	③1回の給油量
自動車用以外のガソリン （草刈機用、除草機用など）	下のリストの番号 ( )番	年間で ( )回/年	1回あたり ( )リットル
自動車用以外の軽油 （農機用、除草機用など）	下のリストの番号 ( )番	年間で ( )回/年	1回あたり ( )リットル

#### <「①よく利用する給油所（ガソリンスタンド）」のリスト>

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1. 久万の山本石油 (ENEOS) | 2. 入野の今井石油 (コスモ)   |
| 3. 久万の東横石油 (ENEOS) | 4. 砥神のJASS         |
| 5. 吉野のJASS         | 6. 畑野川のJASS        |
| 7. みみどろJASS        | 8. 大川の豊和興川石油 (シェル) |
| 9. 篠峰の久保建設 (久保SS)  | 10. 町外のガソリンスタンド    |

次に、町内でガソリンスタンドが減っていることについてお尋ねします。

- 問8 あなたは、町内のガソリンスタンドが閉鎖となったことで、不便を感じたことはありませんか。次のなかからあてはまるものをひとつ選び、○をつけてください。

- よく使っていたガソリンスタンドが閉鎖となり、とても不便になった
- よく使っていたガソリンスタンドが閉鎖となり、多少不便になったが、特に困ってはいない
- よく使っていたガソリンスタンドが閉鎖となったが、特に影響や問題はない
- よく使っていたガソリンスタンドが閉鎖となったことはない
- その他 ( )

- 問9 あなたは、今後の燃料利用についてどのような不安がありますか。次のなかからあてはまるものをすべて選び、○をつけてください。

- いつも利用しているガソリンスタンドが閉鎖してしまうのではないかと不安
- 新開や東宮等で道路通行止があった場合に、灯油が入手できなくなるのではないかと不安
- 灯油の配達をしてくれなくなってしまうのではないかと不安
- 高齢になり、自分で車を運転して灯油を買いに行けなくなるのではないかと不安
- 特に不安はない
- その他 ( )

- 問10 あなたは、今後の久万高原町のガソリンスタンドについて、どのようにお考えですか。次のなかからあてはまるものをひとつ選び、○をつけてください。

- 町内にガソリンスタンドが無くなっても仕方ない
- 町内に1箇所以上あればよい
- 各地区（旧町村）に1箇所以上あればよい（旧河と柳宿は1箇所もないので再掲してはしり）
- これ以上ガソリンスタンドが減らないほうがいい
- その他 ( )

最後に、燃料購入やガソリンスタンド利用に関する不安、ご意見等ございましたらご自由にお書きください。

アンケートは以上です。このアンケート用紙は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて

**11/30 (水) まで**にご投函ください。

ご協力ありがとうございました。

久万高原町SS過疎地対策計画

令和5年1月  
久万高原町